

令和7年度 香川県立丸亀高等学校学校評価書

1 本校の教育方針

国家及び社会の有為な形成者として、知・徳・体の調和のとれた、心身共に健全な人間の育成を期する。

特に、文武両道の高校生活を通じて、生徒の創造的な知性を育て、豊かな情操を養い、身体を鍛えるとともに、自主的・自律的な態度や公共の精神を培う教育を推進する。

2 本校の教育目標

- (1) 自ら学び、考え、実践する態度や能力を育成するとともに、個々の生徒に応じた指導により、学力の一層の向上を図る。
- (2) 人格のより良い発達をめざし、自主的・自律的な生活態度や好ましい人間関係を育て、社会の形成に参画し貢献する態度の育成を図る。
- (3) 自己の能力や適性について自覚を促し、進路情報の提供や進路相談等により、生徒一人ひとりの主体的な進路選択の実現を図る。
- (4) 特別活動等における集団生活を経験させることにより、協調の精神や豊かな実践力を養い、個性や体力の伸長を図る。

3 本年度の成果、課題

学 年 団	1 年 団	p. 1, 2
	2 年 団	p. 3, 4
	3 年 団	p. 5, 6
教 科	国 語 科	p. 7, 8
	地 歴 公 民 科	p. 9, 10
	数 学 科	p. 11, 12
	理 科	p. 13, 14
	保 健 体 育 科	p. 15, 16
	芸 術 科	p. 17, 18
	英 語 科	p. 19, 20
	家 庭 科	p. 21, 22
	情 報 科	p. 23, 24
	総合的学習の時間(TP)	p. 25, 26
校務分掌	総 務 部	p. 27, 28
	教 務 部	p. 29, 30
	進 路 指 導 部	p. 31, 32
	生 徒 指 導 部	p. 33, 34
	教 育 相 談 部	p. 35, 36
	特 別 活 動 部	p. 37, 38
	人 権 ・ 同 和 教 育 部	p. 39, 40
	保 健 部	p. 41, 42
	教 育 研 究 部	p. 43, 44
定 時 制	p. 45, 46	
通 信 制	p. 47, 48	

4 学校評価アンケート

教員, 3年生, 保護者のアンケート結果の比較 (3年間) p. 49~56
 令和4年度の集計 (記述回答あり) p. 57~63

5 学校関係者評価書

p. 64~66

1 年 団

学年主任：大西 亜紀

(1) 今年度の目標

- ① 高校生としての自覚と責任を持ち、基本的な生活習慣を確立すること。
 - ・自律的な生活を心掛け、社会のマナーを身につけた良識のある高校生であることを目指す。
 - ・登下校の交通マナーの遵守、携帯電話の使用のマナーなど、社会規範について、周囲の状況に気を遣い適切な行動ができる高校生になることを目指す。
- ② 授業を中心に据えた自主的学習習慣を確立すること。
 - ・家庭学習時間を確保し、自身の進路を見据えた計画性のある学習ができるようにする。
- ③ 目標、志を高く持ち、充実感と達成感を得られる高校生活にすること。
 - ・学級活動、部活動、生徒会活動、学校行事や校外でのボランティア活動などに積極的に参加し、協調性、社会性や品格を養う。

(2) 主な取り組みの計画

- ① 学校生活を基本にした生活習慣、学習習慣を確立させる。
 - ・日常生活のリズムが学習の土台でもあることを意識させるため、欠席、遅刻、早退、服装指導等、保護者と連絡をとりながら丁寧に指導していく。
 - ・面接指導で、生活時間調査等で自分の生活を振り返らせ、目標を高く持ち、時間を有効に使わせる工夫、意識を持たせる。
 - ・校内の各分掌と生徒の情報の共有を図り、指導に役立てる。必要に応じて、外部の専門機関とも連携をする。
- ② 自ら進路目標を設定し、目標の実現に向けて学習する。
 - ・適切な時期に適切な情報を与え、進路に関する選択と目標設定を支援する。
 - ・自主的に学習に取り組む態度を育て、予習、復習（自宅学習）の習慣を確立させる。
 - ・講演会、オープンキャンパス等を通して、進路実現に向けて意識を高める。
 - ・タブレット端末を有効活用させる。
- ③ 積極的に学校行事や部活動、ボランティア活動に参加させる。
 - ・部活動に積極的に参加させ、心身を鍛えるとともに仲間との連帯意識を育てる。
 - ・運動会や津島杯、斯文祭などの学校行事を通して、クラスの一体感を盛り上げさせる。

1 年 団

学年主任： 大西 亜紀

(3) 成果

- ① 高校生としての自覚と責任を持ち、基本的な生活習慣を確立すること。
 - ・欠席、遅刻、早退、服装指導等を日ごろからきめ細やかに言い、生徒が自らスケジュールを作成管理し、見通しを持って学校活動に取り組めるよう支援した。1学期末にはほとんどの生徒が丸高生としての生活リズムが整ってきた様子であった。
 - ・社会のルールやマナーを守り周囲に配慮しながら適切な行動選択ができるよう、様々な講演会や授業、日常の指導を通して指導した。高校生として自覚を持ち、落ち着いた態度で学校生活を送る姿がみられるようになった。
- ② 授業を中心に据えた自主的学習習慣を確立すること。
 - ・オリエンテーションでは、英語・数学・国語の3教科について、丸亀高校での学習、特に予習・復習の仕方を説明し、毎日の家庭学習の重要性を指導した。
 - ・生活時間調査を年間4回実施し、それを元に担任は面接を実施した。面接を通して、学習時間の確立や睡眠時間の確保など改善が必要な生徒も見受けられ、個別に丁寧に指導することができた。
- ③ 目標、志を高く持ち、充実感と達成感を得られる高校生活にすること。
 - ・多くの生徒が部活動や生徒会活動に参加し、積極的に活動している。勉強との両立が難しく悩んでいる生徒もいるが、このような活動から得られるものも多いので、積極的に取り組むよう勧めた。
 - ・文理選択や志望校調べ等、LHRの時間を活用し、自分の将来や適性を考慮しながらじっくりと目標を考えさせることができた。
 - ・運動会・津島杯・斯文祭等の行事では生徒が主体的に、そして協力して活動することができ、クラスの親睦も深まった。

(4) 課題と次年度以降の改善策

- ・一部の生徒であるが家庭学習が不十分であったり、与えられた課題をこなすことしかできていない生徒の集団がいる。また、課題を提出することが目的になって、積極的に、自主的に目的を持って学習に取り組めていない生徒も多い。しかし、しっかりと目標を高く持ち、自ら課題を見つけて学習に取り組むことができる積極的生徒もいる。多様な生徒が混在する中で、担任を中心に引き続き面談等を活用して、生徒自身が目標を立て、モチベーションを維持しながら地道に学習していくよう働きかける。
- ・東大、京大のキャンパスツアーは生徒にとって進路を考える上で効果が高いので、ぜひ継続していく必要がある。より効果を上げるために、事前の指導も充実させる必要があると思われる。生徒個々が自身の進路希望に応じてオープンキャンパスに参加するよう促していきたい。
- ・毎年、教育相談上、配慮が必要な生徒が増えてきている。入学後の環境の変化の変化をきっかけに、想像していた高校生活と現実とのギャップに悩むケースが多い。また、周囲との人間関係の構築に苦勞する生徒も増えている。学級担任を中心に、保護者や出身中学校・医療機関等とも連携して、教育相談部をはじめ、学校全体として情報を共有しながら、適切な指導や支援に努める。

2 年 団

学年主任：佐野 英二

(1) 今年度の目標

- ① 2年生としての自覚を持ち、規律ある高校生活を送る。
 - ・改めて、基本的な生活習慣の確立。休まず遅れず毎日登校すること。
- ② 進路の具体的な目標を持ち、主体的に学習をする。
 - ・家庭学習の時間を確保し、目標実現に向けて効果的な学習をする。
- ③ 部活動や特別活動に意欲的に取り組み、充実感と達成感を得る。
 - ・部活動や修学旅行、斯文祭などの学校行事に積極的に参加して、未知なる自己実現を図る。

(2) 主な取り組みの計画

- ① 授業態度、服装、言動など基本的な生活習慣の確立について学年(学校)全体で取り組む。
 - ・基本的な生活習慣の確立が最重要であること自覚させる。
 - ・予習・授業・復習のサイクルを循環させ、授業を大切にす。普段の学習・テスト・テスト直しのサイクルを循環させ、実力を養う。そのために学習計画表や生活時間調査、夏休みの生活時間調査等を有効に活用させ、PDCAを実践させる。
 - ・面接指導を効果的に実施する。つまずきの発見や悩み等を早期に発見する。聞き取りを通じて生徒の内面に寄り添う指導を行い、人間的成長を促す。
- ② 学力に関して面接等を重視し、個に応じた指導をする。
 - ・家庭学習時間が取れるように計画を立て実践させる。
 - ・受験情報を提供紹介するだけでなく、自分で必要な情報を探す力をつけさせる。進路ホームルームなどを利用し、『進路の手引き』、タブレットをこれまで以上に活用させる。
 - ・定期試験、学力テスト、校外模試での振り返りを重視させる。
 - ・オープンキャンパスや難関大セミナーへの積極的な参加を促し、進路意識を高めさせる。
 - ・「進路だより」を効果的に活用して、どの時期に何をすべきかのアドバイスを与える工夫をする。
 - ・3学期を「3年0学期」と位置付け、受験生としての自覚を持って学習に取り組ませる。
- ③ 学年団、クラスの和を大切にし、学校行事に積極的に参加させることによる人間的な成長を促す。
 - ・部活動でリーダーシップを発揮する。(部内での健全な人間関係の構築)
 - ・学校行事(運動会、斯文祭、津島杯、修学旅行など)に積極的に参加させる。
 - ・その他の企画(高大連携事業や講演会など)に積極的に参加させる。

2 年 団

学年主任：佐野 英二

(3) 成果

- ① 2年生としての自覚を持ち、規律ある高校生活を送る。
 - ・体育祭、斯文祭、修学旅行など学校行事を通じて、少しずつ2年生の自覚持つようになった。また日々の生活指導や面接指導等を通じて、生徒の悩みなどを早期に把握することもでき、その後の指導に繋げることができた。
 - ・登校することが不安な生徒については保護者との連絡を密にし、教育相談部、養護教諭、SCとの情報交換を行い指導に生かすことができた。生徒の情報共有ができていたので、その後の対応がスムーズにできた。
- ② 進路の具体的な目標を持ち、主体的に学習をする。
 - ・担任による面談指導、進路HRを通して、大学進学に向けたより具体的な進路指導ができた。また各自が志望校、学部学科についてよく考えることができた。
 - ・長時間学習ができる生徒がいる一方で、日々の課題の提出に苦勞したり、定期考査の成績が振るわない生徒もいる。
 - ・授業におけるタブレット端末の活用は、定着しているように感じる。課題の提出や添削、アンケート調査など目的に応じた活用ができています。
 - ・TPではタブレット端末を活用してプレゼンテーションを行い、その成果を発表することができた。
- ③ 部活動や特別活動に意欲的に取り組み、充実感と達成感を得る。
 - ・斯文祭など2年生が企画、運営の中心となり実施することができた。
 - ・修学旅行は北海道に行った。地元香川では体験することができない雄大な自然に触れることができ、また自主研修では自分たちで企画したコースを散策して、雄大な北海道の文化を学ぶことが出来た。

(4) 課題と次年度以降の改善策

- ・0学期宣言を前倒しして2学期終業式に実施した。2年生の冬休みを有効に活用し3学期から始まる多数の試験に向けて対応した。しかし、春休み以降3年生の1学期に向けて、息切れする生徒も見られる。3年4月の新クラスでの面接等を利用して、志望校の確認や、学習計画の確認等を早急に実施する。
- ・大学受験が現実となり、精神的ストレスを抱え込み心身に不調をきたす生徒が増えることが予想される。保護者との連絡を密にして、生徒の情報共有を図りたい。校内の分掌や医療機関とも連携して、学校全体で生徒を支援していく。
- ・個々の生徒の進路実現が目標になるが、受験の為だけの勉強にならないように日々の学校生活の指導で人間的成長も促していきたい。

3 年 団

学年主任：白川 一樹

(1) 今年度の目標

- ① 3年生としての自覚を持ち、心身の健康に留意して、規律ある高校生活を送る。
 - ・自主、自律的で健康な生活を実践し、協調的態度を育成する。
- ② 進路目標を高く掲げ、実現する。第1志望校現役合格。
 - ・進路目標を明確にし、目標実現に向けて効果的な学習をする。
- ③ 豊かな人間性を養う。
 - ・社会生活における役割や責任を自覚し、他者への理解や思いやりの心を育成する。

(2) 主な取り組みの計画

- ① 3年生であることを自覚し、自律的で健康な生活が送れるよう支援する。
 - ・言葉遣いや服装、態度、時間や約束の厳守などの基本的な生活態度が適切であるか、機会あるごとに指導する。
 - ・人間関係や進路など生徒の悩みや不安を注意深く察知し、心身ともに健康な学校生活を送ることができるよう、生徒との面談や保護者との連携、および校内連携により支援する。
- ② 主体的に進路目標が実現できるように支援する。
 - ・面接や三者面談などを通して、進路を明確にさせる。
 - ・適切な時期に進路説明会や懇談会を実施することにより、生徒と保護者が共通理解の下で進路を決定できるようにする。
 - ・進路ホームルームや総合的な探究活動などを通して、納得のいく進路選択をし、計画的に学習を進めていけるよう支援する。
- ③ 好ましい人間関係を築かせて、社会生活を営む力の向上を支援する。
 - ・学ぶことの楽しさを追究するとともに、社会の動きに関心を持ち、周囲の人々の気持ちに配慮できるような広い視野を持たせる。
 - ・運動会、津島杯（クラスマッチ）、遠足などの学校行事に積極的に参加させることによつて、好ましい人間関係を築かせ、協力、協調の精神を養う。

3 年 団

学年主任：白川 一樹

(3) 成果

- ① 3年生としての自覚を持ち、心身の健康に留意して、規律ある高校生活を送る。
 - ・生徒一人一人が自らの役割と責任を自覚した行動が取れるようになり、規律のある学校生活を送れるようになった。
 - ・多くの生徒が、基本的な生活習慣の定着や健康管理への意識の向上が見られたが、生活習慣の乱れから体調を崩し欠席、遅刻をする生徒も一部みられた。欠席が続く、また気になる様子が見られた時には、保護者への連絡を密にとり、必要に応じてスクールカウンセラーも含めた校内連携を図ることで、生徒が心身ともに健康な学校生活を送れるように支援することができ、改善につなげることができた。
- ② 進路目標を高く掲げ、実現する。第一志望校現役合格。
 - ・進路HRや、正・副担任、教科担当による面談指導、三者懇談を通して、第一志望を貫くことの大切さを説くとともに、進路実現のために最後まで粘り強く取り組めるように支援することができた。
 - ・第一志望校への現役合格を目指す進路意識が定着することで、生徒の学習に対する主体性が高まり、着実な学力向上が見られるようになった。
 - ・1学期末、2学期末の保護者懇談に加え、共通テスト後の懇談会を実施し、国公立大学出願校の最終決定や私立大学出願の最終確認などについて、担任、生徒、保護者が十分に話し合うことができた。
 - ・2月からの家庭学習期間中も登校して自習ができるように教室を開放し、放課後も残って勉強できる環境を整える。(予定)
- ③ 豊かな人間性を養う。
 - ・多くの学校行事を通して、クラスの一員としての自覚、一体感を高めることができた。また、日々の生活指導や教育活動を通じ、他者を思いやる心や規範意識など、心豊かな人間性が育成されてきた。

(4) 課題と次年度以降の改善策

- ・多くの生徒が高い学習意欲を持ち学力を向上させている中で、十分に学習時間が確保できていない生徒もおり、基礎学力の定着を図るとともに、主体的に学習に取り組める姿勢をさらに育成していくこと、また生徒の理解度に応じた個別指導の必要がある。
 - ・2学期後半になり、欠席する生徒が増える傾向にあった。体調不良が主な理由になっているが、本当に体調不良であれば受験に向けて健康管理に努められるように指導をし、また精神面での不安や不調であれば、面接指導等を通じて解消できるように支援していきたい。
- しかしながら学校を欠席して、校外の教育施設で受験に必要な科目のみ勉強をする生徒もいるようである。毎日登校して学校の授業を受けることの大切さを指導していきたい。

国 語 科

主任：小山 初美

(1) 今年度の目標

- ① 論理的な読解力の向上
- ② 古典読解力の向上
- ③ 読書指導の強化

(2) 主な取り組みの計画

- ① 論理的な読解力を向上させるための指導を工夫する。
 - ア 授業で論理的な文章を教材として積極的に使用する。
 - イ 評論文を要約させることを繰り返すことにより、論理的な思考を養成する。
- ② 古典読解力を向上させる。
 - ア 基礎力テストを利用し、動詞→形容詞・形容動詞→助動詞→助詞→敬語という段階を踏んで学習させ、読解の助けとさせる。
 - イ 日本語における文末表現(助詞・助動詞・補助動詞等)の微妙な差異に気づかせ、現代語訳を注意深く行うことの重要性に気づかせる。
 - ウ 学力テストや、本校教員の作成した独自教材を用いて、より多くの古典に触れさせる。
 - エ 生徒に予習をして授業に臨み、授業後は復習するようにながす。
 - オ 効果が期待できる場面では、適宜ICT機器を利用して、指導の助けとする。
- ③ 生徒が図書に触れる機会を増やす。
 - ア 図書室の利用をうながす。
 - イ 読書の記録や読書感想文を利用し、長期休業中にも図書に触れる機会を増やす。

国語科

主任： 小山 初美

(3) 成果

- ①ア 教科書教材において、現代文では評論文に重点を置いた。
イ 評論文の問題演習、百字要約等に定期的に取り組み、各自で添削や採点を行わせた。
- ②ア 1年生では動詞・形容詞・形容動詞・助動詞及び基礎的な漢文句法、2年生では助詞・敬語及び漢文句法の基礎力テストを、計画的に実施した。
イ 助詞・助動詞といった付属語の読解における重要性を理解させるため、古文の予習では自分で付属語を指摘した上で口語訳をするように、特に指導した。
ウ 1年生については、新教育課程になって古典分野を扱う授業時間が減少した。少しでも多くの作品に触れさせるため、長期休業中に、説話や随筆を出典とした問題演習に取り組み、古典に親しむ機会を設けた。2年生では、古典常識をテーマにした本校独自に作成した教材に取り組みさせた。継続的に自分の力で読む経験を積むことで、古典への興味を喚起するのにも役立った。古典常識教材は3年生でも継続指導した。
エ 「予習・復習」については、古典分野で特に向上が見られた。「行っていない・あまり行っていない」層が、1年言語文化で7月には12.1%だったが、12月に8.1%と減少、3年古典探究でも7月5.0%から12月3.9%と、意欲的に予習・復習に取り組むようになってきた様子が、数字の上でも確認できた。新しい教材に入る前に意味調べやワークシート等に取り組み、授業後は要約をさせるなど、授業の定着を図る取組みを行った。
オ 本文や資料をホワイトボードに投影して理解の助けにしたり、ロイロノートを活用して記述問題の答えを提出箱に出させ、生徒同士で意見を共有したりした。
- ③ア 1年生初めにクラス単位で図書室ガイダンスを行った。さらに授業で扱った教材に関連した図書室の書籍を紹介したり、教科書で学習した作品に関連した書籍を、図書室で購入していただいたりなど、図書室とも連携して読書指導を行った。2年、3年論理国語で新聞記事を題材にした課題を出し、新聞や小論文関連の図書の利用を促した。
イ 読書指導に関しては、今年度も夏休みに「読書感想文」を、また、春・夏・冬の長期休業中には「読書の記録」を課題に設定することで、生徒に読書を促すことができた。「読書の記録」の中の推薦図書リストには、本校生徒の貸出回数の多い本も併せて紹介し、最新の情報に更新できている。

(4) 課題と次年度以降の改善策

大学入学共通テストでは、本校平均点は、中間発表平均点に対し26点以上の得点差をつけ、今年も健闘したといえる。

学力テストは、1・2年生とも特定の範囲を設定しない出題であり、日頃の学習の成果がダイレクトに成績に出るため、生徒も授業や家庭学習の重要性を感じるようになってきたと感じる。校外模試は、3年生の11月平均点偏差値は58.3であり、過去5年間で最もよい成績である。2年生では、7月に55.7と、例年と比較して成績が振るわず憂慮していたが、11月で57.5へ上昇しており、同時に下位層も減少している。1年生は昨年度の同時期に比較して、最上位層の割合が倍増している。今後は、教科からも、高い目標を達成するためには今どんな取組みが必要か声をしたり、学習方法の相談に個別に応じたりするなどして、さらに難関大学を目指す層が増えることを期待したい。一方で、古典基礎力テストの成績不振者が固定傾向にあるため、生徒に文法・句法の基礎を身につけることの大切さを根気強く説き、下位層の学力の底上げもさらに図りたい。

地歴・公民科

主任：原 利津子

(1) 今年度の目標

- ① 社会事象に関心を持ち、自ら学び考え、自分の身の回りを含む社会をよりよくしていこうとする態度を養う。
- ② 現代社会における諸問題の社会的背景や要因について、自ら探究し、表現する力を養う。
- ③ 地理・歴史・公民分野について幅広く関心を持ち、それぞれの科目で基本的な知識を定着させるとともに、身につけた知識を総合的に活用できる力を養う。

(2) 主な取り組みの計画

- ① ア 授業で、時事問題を取り上げる時間を適宜設け、生徒の関心を喚起する。
イ 授業内容と生徒の身の回りで起こっている事象との関連に気づかせ、授業内容を自分の身近なものとして考えさせる。
- ② ア 現代社会における諸問題について考察する際の参考となるように、新聞のコラム欄や図書を紹介したり、タブレットでの情報検索をうながしたりする。
イ 適宜、アクティブラーニングを授業に取り入れ、主体的に学習に取り組めるようにする。その際、タブレットを有効活用する。
- ③ ア 教員間で連携を図り、各科目の学習内容について互いに確認できるようにする。
イ 授業の学習内容と、他の科目の既習事項とのつながりに気づかせ、知識を関連づけて複合的に考察する力を身に付けさせるようにする。

地歴・公民科

主任： 原 利津子

(3) 成果

- ①ア 各科目において、現在世界で起こっているニュースや生徒の身の周りで起こっているできごとについて触れる機会を適宜設け、授業の導入として取り入れたり、学習課題を考える上での例として示したりするなど、さまざまな社会事象への関心を喚起できた。
- イ 授業内容と現代社会のできごとを関連させて考えさせることにより、自分の身の周りや過去のできごと、外国のできごととのつながりを実感できる生徒が増えてきたようだ。授業評価アンケートの自由記述欄には「昔のできごとと今はつながっていると感じた」などの記述も見られた。
- ②ア タブレット等を使って身近な情報を活用することで、授業内容や社会的事象に対する興味関心の向上が見られた。歴史では、芸術作品や、授業内容から現代につながるできごとについて検索した。地理では、地図やデータ、Google Earth等のアプリを多用し、地理的事象について視覚的に理解できるようにした。また公共では、様々な政党やその政策を検索・比較し、その多様性を知るきっかけとした。授業アンケートでは、「プリント、補助資料、ICT機器の利用など、授業内容を理解しやすいように工夫している」を「あてはまる」と回答した生徒が、第1回では75.4%であったが、第2回では80.8%と増加しており、授業内容への興味・関心を高めたり、理解を深めたりするための工夫に成果を見ることができた。
- イ 主要な歴史的事象および地理的事象について発問したり、さまざまな資料を提示したり、タブレットでの検索を促して考察、発表を行うなど、主体的に活動し、思考力、判断力、表現力を養うことを意識して授業を行った。地理総合では、観光の単元で班ごとに修学旅行のプランを組んで発表し合ったり、地形図から読み取った各地域の特徴を発表し合ったりした。また歴史総合では、さまざまな資料から考える問題について生徒同士で意見を交換し合う時間を設けるようにした。しかし、限られた授業時数の中で討議を行うまでの時間の確保は難しい科目もある。
- ③ア 日頃から各科目の授業内容について担当者間での確認を行い、科目間で知識を補い合い、授業内容の精選につながるようにした。
- イ 日本史と世界史、世界史の現代分野と政治・経済など、科目間で学習内容の関連が深い単元では、進度を確認し、後で学習する科目の授業で発問をしたり、確認をさせたりすることで、限られた授業時数の中で知識を深められた。

(4) 課題と次年度以降の改善策

- 引き続き科目間の連携を図り、生徒の理解を深め、授業内容の精選につながるようにしたい。また、タブレットの活用方法について教員間で方法を共有するなど、研究を重ね、生徒の思考力・表現力の向上につながるようにしたい。
- 大学入学共通テストにおいて、どの科目でも多くの資料を用いた問題がさらに増える傾向にあるので、授業の中で資料にふれる機会を設けたり、学力テストや校内模試で出題、解説を行ったりして、対応力を身につけさせたい。

数 学 科

主任：岡田 道有

(1) 今年度の目標

- ① 自主的学習習慣を確立させる
- ② 基礎学力を充実させる
- ③ 個に応じた指導で、学力上位層を伸長、下位層を底上げする
- ④ 新時代に対応し、数学的な見方や考え方を活用できるようにする

(2) 主な取り組みの計画

- ① ア 入学当初のオリエンテーションで、予習復習の方法を具体的に示すことにより、家庭学習習慣を身につけさせる。答えを出すことより、その過程を大切にされた答案づくりができるよう細かなノート点検をする。
イ 1・2年生に対しては確認課題を実施することにより、生徒の学習習慣を確立させる。基礎学力の定着および授業の理解度の向上を図るとともに、発展的な学習を促す。また、期日を守り提出することの定着を図る。
ウ 学力テストでの幅広い難易度や思考力を問う問題の出題により、基礎的内容を確認させるとともに、発展的な学習に計画的に取り組む姿勢を持たせる。
- ② 定期試験、学力テスト後に訂正ノートの作成を課し、出題の意図の確認と反省を促す。また、学習内容の理解と定着を促すため、細かな点検をする。
- ③ 2年生に対して、少人数習熟度別授業で生徒の習熟度に対応したきめ細やかな指導を行うことにより、個々の生徒の理解度を高め、数学に対する興味関心も高める。
- ④ ア ICTの活用とグループでの課題解決学習を通して、双方向の授業を展開する。主体的で深い学びになるように工夫する。
イ 試験問題に共通テストを意識した思考力を培う問題を出題する。

数 学 科

主任： 岡田 道有

(3) 成果

- ① 自主的学習習慣を付けれるよう、提出課題を単元ごとに与えている。1年生では、取り組んでいるという数が、85%から93%に上昇したものの、2年生では87%、3年生では88%が取り組んでいるものの変化はなかった。その日のうちに復習することが定着につながることを授業を通して伝えたい。
- ② 基礎学力を充実させるために提出物を出す習慣をつけることから1年生には厳しく指導している、まだ3%ぐらいの者が提出できていない。2年生では8%、3年生では9%ぐらいの者が提出できていない状況である。ただ、提出内容が答えを写しただけのものが増えてきたように思う。基礎学力をつけるまでには至っていない。
- ③ テストごとに訂正ノートをこまめにチェックしている。ただ解き直すだけでなく、どこでミスをしたのか分析させることで、理解を深めさせている。提出課題も、書き方のアドバイスをすることで、個に応じた指導に心がけている。
- ④ タブレットを活用して、グラフを動かしたり、図を描くことで、より理解が進められている。また、グループ活動や、解答の共有により、いろいろな考え方に触れさせることができている。

(4) 課題と次年度以降の改善策

- ①ア オリエンテーションで、予習復習の仕方を伝えたが、中学校からの答えを求め、丸を付ける習慣から抜け出せず、式の羅列で、論理的思考に至っていない。ノートの使い方も四月当初に改めて話す必要を感じる。
 - イ 提出課題については概ね、期日を守って提出することができているが、残り1割弱の者が指導についてこられていない。まず、自分のできる範囲で提出することを促し、期日を守ることを徹底させたい。
 - ウ 学力テストでは、共通テストで量をこなすことも必要とされているので、チャートの中から、思考力を問うような問題を精選し時間配分も考えて取り組ませている。定期テストにおいても、会話文形式の問題を取り入れ、取り組ませっていく。
- ② 訂正ノートを細かくチェックする。解きなおしで無く、ミスを分析したり、自分の理解度を把握するノートになるよう、細かいアドバイスをし、最後まであきらめずに取り組むことができるよう粘り強い指導をしていくことで、レベルアップを図りたい。
- ③ 習熟度の低い生徒には、4Stepの問題をレベル分けして繰り返しやらせることで、レベルアップを図り、習熟度の高い生徒には、別解を考えさせたり、チャートの発展問題や、入試問題にも触れ、興味関心を持たせて取り組ませたい。
- ④ 教師間で、タブレットを使った教材や授業展開を共有することで、より興味関心を引くような授業を行なえるよう、連携を図りたい。

理 科

主任：小橋 三知栄

(1) 今年度の目標

- ① 自然現象に関する興味関心を育てる。
- ② 思考力や判断力、表現力を向上させ、自ら科学的に探究しようとする態度を養う。
- ③ 基礎的な学力を養う。

(2) 主な取り組みの計画

- ① 自然現象に関する興味関心を育てるために
 - ア 実物にふれる機会や実験などを多く設ける。
 - イ ICT教材を使用して写真や動画などを提示したり、デジタル教授資料を活用して最新の研究や身近な内容にも触れたりして、興味関心を高めさせるとともに、より深い理解を目指す。
 - ウ 校内掲示やパンフレットの配布を通じて、様々な科学賞や大学の高大連携企画等を紹介し、参加を促す。
 - エ 科学の甲子園や科学オリンピック等に興味を持つ生徒を募り、参加を呼びかける。
- ② 思考力や判断力、表現力を向上させ、自ら科学的に探究しようとする態度を養うために
 - ア 講義や実験などで仮説を立てたり、考察したりする機会を多くとる。
 - イ ペアワークなどアクティブラーニングの手法を用いて言語活動を活発に行い、論理的に考え、表現する力を養う。
 - ウ 疑問に対する仮説、立証するための実験などをレポートとして課し、科学的な探究心や学びに向かう力を育成する。
- ③ 基礎的な学力を養うために
 - ア 小テスト（確認テスト）を実施する。
 - イ 定期的に課題を課すことで、授業の進行と合わせた家庭学習による基礎的な学力の定着を促す。
 - ウ 定期試験・校内模試・学力テストなどのテスト直しを各自でまとめさせる。

理 科

主任：小橋 三知栄

(3) 成果

- ①ア 各種現象を理解・考察するための実験を、理科全体として積極的に行った。遺伝子組み換えや解剖、糖の結晶構造モデルの組み立てなど、実物やモデルを用いての観察・実験をできるだけ取り入れ、興味関心を高め、理解を深めることができた。化学物質や生物体内にある酵素などに実際に触れる実験を通して、その中から最新の技術に繋がることを考察させた。また、授業評価アンケートにおいても、実験・実習の理解度や考察に関する生徒の自己評価が高かった。
- イ 教科書のQRコードを利用し、映像資料などを提示することで、理解を深め印象に残すことができた。また、実験データ処理においては、コンピュータソフトを利用することが効果的であった。
- ウ 高大連携企画等の周知(パンフレットの配布・掲示)を行った。
- エ 「科学の甲子園」に参加した。全国大会出場こそかなわなかったが有意義な活動であった。
- ②ア 仮説-実験-考察を、グループでの話し合いを中心にして生徒主体で行った。
- イ アクティブラーニングの手法を用い、専門用語を使用した言語活動を通じて考察する過程で、理解が深まる学習スタイルが定着している。また、ペアワークを行うことで、自己の理解をよりはっきりとさせることができた。
- ウ 実験プリントの提出に合わせて、自己の疑問点に対して仮説を立て、それを考察させた。この科学的思考の流れの疑似体験が、教科書記載実験の研究者の思考の流れを理解しようとする意欲につながっている。
- ③ア 授業のはじめ、途中、または、重要単元を学習した後に、小テストを実施した。再テストも実施し、理解が不十分な生徒への対応も行った。また、発問を工夫して授業中の理解を高めた。
- イ 併用問題集を定期試験ごとの提出物とするとともに、単元ごとに問題集に取り組むタイミングを細かく指示したり、ICTを利用した自主課題学習を実施したりして、家庭学習の習慣化を目指した。また、長期休業中もレベルに応じて問題集を指定し、提出することを課題とした。
- ウ 試験の解説を充実させることで、定期試験、校内模試、学力テストを繰り返し解く意欲の向上をはかった。これは基礎的な学力の定着につながっている。また、復習のリズムづくりにも効果的であった。

(4) 課題と次年度以降の改善策

- ・大学入学共通テストの傾向では、最新の技術をテーマとした問題や、実験データから考察させる問題が多く出題されている。細かな知識を統合して理解する力を試されているため、授業においても、引き続き、基礎学力の定着、思考力・表現力の育成を重視して展開する。
- ・アクティブラーニングの手法を用いて言語活動を行うことは定着してきている。どのように活動させるか、引き続き研究する。
- ・教科書のQRコードから解説や実験の動画を活用し、基本的な概念の理解を徹底する。

保健体育科

主任：大野 拓生

(1) 今年度の目標

- ① 選択した種目の運動の特性に応じた技能を身に付けさせる。また、社会生活における健康・安全について理解させる。
- ② 運動や健康についての自他や社会の課題を発見させ、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断できるようになる。また、これらを仲間などに伝える力を養わせる。
- ③ 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養わせる。

(2) 主な取り組みの計画

- ① ア 選択した種目で学ぶ技術の名称やその行い方、主体的な学習を行う上での課題解決の方法を理解させる。
イ 個人生活のみならず社会生活との関わりを含めた健康・安全に関する内容を総合的に理解することを通して、生涯を通じて健康や安全の課題に適切に対応できるようにさせる。
ウ 運動の楽しさや喜びを深く味わうための運動の技能を身に付けさせる。
- ② ア 選択した種目の特性を踏まえて、動きや技などの改善についてのポイントや課題を発見させる。また、健康にかかわる事象や健康情報などから自他の課題を発見させる。
イ 選択した種目に関わる一般原則や運動に伴う事故の防止等の科学的な知識や技能を、自己や仲間の課題に応じて学習場面に適用、応用させることや、課題解決の過程などを活用して新たな課題発見・解決につなげさせる。また、自他のみならず社会を含めた健康に関する課題について、習得した知識及び技能を活用し、解決方法を考えるとともに、様々な解決方法の中から適切な方法を選択するなど、よりよい解決に向けて判断させる。
ウ 自己や仲間の課題について、思考し判断したことを、言葉や文章及び動作などで表したり、仲間などに理由を添えて伝えたりさせる。
- ③ ア 選択した種目の特性や魅力に応じて、その楽しさや喜びを深く味わおうとする主体的な態度、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にするなどの意欲や健康・安全への態度を系統的に育むことにより、運動との多様な関わり方を状況に応じて選択し、継続して実践できるようにさせる。
イ 自他の健康やそれを支える環境づくりの大切さを認識し、健康の保持増進や回復等に主体的・協働的に取り組み、健康で豊かな生活を営む態度を育成させる。
ウ 選択した種目を適切に行うことによって、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、心身の調和的発達を図らせる。
エ 生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力、健康の保持増進の実践力及び健やかな心身を育てさせる。

保健体育科

主任： 大野 拓生

(3) 成果

①に関連したアンケート結果でみると「ルールやマナーを大切にし、公正に取り込むことができた」91.2%、「運動の楽しさや喜びを感じることができた」83.6%、「運動を見ることや知ることを楽しむことができた」80.4%、「体調に応じて運動量を調整したり、用具の状態やその場の状況が安全かを確認したりすることができた」80.2%、「個人及び社会生活における健康・安全について理解することができた」82.2%という結果であった。

②に関連したアンケート結果でみると「課題を発見し、改善のための練習や作戦の考え、実践し、評価することができた」80.3%、「自己や仲間の課題について考えたことを言葉や文章にしたり、他者に伝えたりすることができた」69.8%、「自らの意志を伝えたり、仲間の意見を聞き入れたりすることができた」77.5%、「健康についての自己の課題や社会の課題を発見し、解決に向けて考えることができた」78.5%という結果であった。

③に関連したアンケート結果でみると「運動の技術や体力の高め方について理解し、実践することができた」77.3%、「授業中や生活の中で、自己の体力に応じた運動の計画を立て、取り組むことができた」65.6%、「技能や体力の違いに配慮し、助け合ったり、教えあったりすることができた」82.7%、「役割を積極的に引き受け、責任を持って取り組むことができた」77.2%という結果であった。

(4) 課題と次年度以降の改善策

① アンケート結果では、ほとんどの生徒が目標を達成し、全ての項目で上昇した。「体調による運動量の調整」についても80%を上回った。今後も授業中は特に生徒の体調を把握し、次年度も継続し、更なる向上を目指していきたい。

② アンケート結果では、全ての項目で積極的に取り組むことができている。ただ「自己や仲間の課題について考えたことを言葉や文章にしたり、他者に伝えたりすること」は本年度も80%を下回った。次年度も生徒間のミーティング時間を増やし、教員もアドバイスができる環境をつくれるように実践していきたい。

③ アンケート結果では、全ての項目で上昇し、全体で昨年度よりも上昇した。特に「授業中や生活の中で、自己の体力に応じた運動の計画を立て、取り組むこと」は65.6%だった。次年度も体育、保健の授業の両面から自分の体力を把握させ、自分の体力にあった計画が立てられるように実践していきたい。

芸 術 科

主任：藤田 貴子

(1) 今年度の目標

- ① 音楽・美術・書道それぞれの特徴について理解し、意図に基づいて表現するための基本的な理論や基礎的な技能を身に付けさせる。
- ② 年度末の「学習成果発表会」に向けての活動の中で、創る喜びと発表する達成感を味わわせ、生涯にわたって芸術を愛好する心情を育むとともに、生活の中で芸術を楽しませるようにする。
- ③ 学習効果を高めるために、引き続きICTの効率的な活用について研究する。

(2) 主な取り組みの計画

<音楽>

- ① 演奏技術、歌唱技術の向上を目指し、論理的な考え方に基づいた実践練習を行えるよう指導する。
- ② 舞台上で演奏することを想定して短期的、中期的な目標を設定し、達成度合いを生徒同士、または教員が確認しながらお互いに磨き合える雰囲気をつくる。
- ③ 音楽アプリケーションの利用により理解を深めたり、録画機能を用いて課題の提出を行うことで、自身の演奏を客観的に振り返る機会を設け、学習効果を高める。

<美術>

- ① 美術の基本的な内容を復習しながら、より発展的な学習指導をする。
- ② 美術史の中で多種多様な作品に触れ、自分の表現に合う表現材料、表現方法を模索し、計画性をもって作品制作に取り組ませる。
- ③ 教授資料の提示、活動の記録などでタブレットを活用し、資料の細部を確認させたり、活動の振り返りをさせたりすることで学習の定着と自ら課題発見をさせる。

<書道>

- ① 1年生の導入部分で書写から書道への移行がスムーズにできるよう、個別指導やグループワークを適宜取り入れて、主体的に活動できるよう雰囲気づくりを心掛ける。
- ② 作品を創作するにあたって、意図をもって制作することの喜びや達成感を味わわせるとともに、身近にある様々な芸術作品にも目を向けさせるようにする。
- ③ タブレットを有効に活用し、作品の制作過程や作品鑑賞に効果的に生かせるようにする。

芸術科

主任： 藤田 貴子

(3) 成果

<音楽>

- ① 良い演奏とは何かを分析的に考えられるよう具体例を示し、生徒自身の言葉でまとめさせる機会を持つことで、実践的な演奏技術の向上をはかることができた。
- ② 生徒個々の進度に応じた基礎的な目標、応用的な目標を設定させ、その達成度合いを他者に聴いてもらって評価を受けることで技術、表現を磨くことができた。
- ③ 創作においてはタブレットを利用したオンラインで演奏可能なキーボードの利用、無料楽譜制作ソフトの利用等により、質の高い作品を仕上げることができた。

<美術>

- ① これまでの学びを生かしながら、より理論的に造形表現について考察できた。
- ② 大型提示装置を使用して長期計画での授業時間や活動内容を常に見せることで計画的に活動することができた。
- ③ タブレット端末に保存している制作過程の記録写真を用いて、デジタルで色味の確認等を行い、効率的に試作し作品の完成度を高めることができた。

<書道>

- ① 書写から書道への移行に関して年度当初は特に配慮をしているが、今年度はわりとスムーズに移行できたように思う。
- ② 創作や倣書の時間が思うように取れず、相互鑑賞が十分にできなかった。
- ③ 机間巡視に重きをおき、質問をしにくい生徒や自己の課題を見つけられていない生徒には積極的に声をかけることができた。

(4) 課題と次年度以降の改善策

<音楽>

タブレットの効果的な使用により、自身の演奏を客観的に評価したり、もっと多くの他者評価を受信、発信したりすることで、効率的、効果的な学びにつなげられるようなシステムを構築したい。

<美術>

スケッチの段階でコンセプトの弱い生徒が多くいた。個別指導を丁寧に行い、表現したい内容について相談し想いを伝える制作に繋がられるよう指導していきたい。

<書道>

教育実習生による授業や学級閉鎖等による授業数の減少のため、例年にも増して慌ただしく感じた。来年度はさらに内容を精選していく必要がある。後期は創作作品の制作が増えてくるので、表現する楽しさや喜びを味わえるようにさらに個別指導に重点を置いて指導していきたい。

英 語 科

主任：伊藤 佐和子

(1) 今年度の目標

- ① 基礎・基本事項を定着させ、生徒個人に合った指導を行う。
- ② 積極的に英語で自分の考えを表現したり、英文で書いたりする姿勢を養うとともに、他の人の意見を聞き取り、それに対して自分の意見を言ったり質問したりする能力を養う。
- ③ 計画的・自主的学習習慣を養う。

(2) 主な取り組みの計画

- ① ア 授業の予習・復習に確実に取り組ませる。
 - イ 1年生では「LEAP 必携英単語」「新・英語の構文150」を、2年生では「速読英単語」「構文150」を定期試験と学力テストに出題し、基礎・基本事項を定着させ、応用問題にも対応した語彙・文法・語法・構文にも取り組ませる。
 - ウ 1年生の論理・表現Ⅰでは、少人数クラスで授業を実施し、文法を定着させながらスピーキング力やライティング力を養う。2年生の論理・表現Ⅱにおいても少人数クラスで授業を実施し、スピーキング力やライティング力を伸ばす。
 - エ 3年生は教科書の他に問題集を使って基礎・基本事項を定着させ、個別に添削等を行い、大学入試に向けて実践に即した力を身につけられるようにする。
- ② ア 1年生ではALTによるインタビューテスト、Show & Tell、ミニディベートを実施する。
 - イ 2年生ではALTによるエッセイライティング、プレゼンテーションを実施する。
 - ウ 3年生ではALTによるプレゼンテーション、大学入試等の実践に即したエッセイライティングを実施する。
 - エ 全学年でリスニング力を身につけるための教材に取り組ませる。また、自分の意見や考えを表現する力を養うため、オンライン添削を実施する。
- ③ 自学用の参考書や問題集をもたせて、定期試験、学力テスト、校内模試に向けて計画的に学習に取り組ませる。また、週末課題を実施し、家庭学習の充実を図る。

英語科

主任： 伊藤 佐和子

(3) 成果

- ① 1年生では「DUAL SCOPE 総合英語」と各単元の練習問題に取り組みさせることで基本文法の定着を図ることができた。また、「新・英語の構文150」や記述式の長文問題集を課題として提出させ、英作文を書く力や読解力を向上させることができた。2年生では1年生で学んだ文法を復習しながら、入試問題の英作文に挑戦させたり、「速読英単語」「英語の構文150」や記述式の長文問題集を課題として提出させたりすることで、入試問題の長文読解に対応できる力を身に付けさせることができた。

校外学力テスト 1年長文読解得点率 7月 35.5% → 11月 50.9%

2年長文読解得点率 7月 41% → 11月 45.7%

- ② 1年生は、Show & Tell、インタビュー、ミニディベート、2年生は、プレゼンテーション、パラグラフライティング、インタビュー、グループディスカッション、3年生は、プレゼンテーション、場面の説明、入試問題の英作文など、各学年でALTとのチームティーチングによる様々な活動に取り組みさせ、ALTが生徒の英語を評価し、定期テストの評価にも加えることで、生徒が積極的に自分の考えを英語で話したり、書いたりする能力を高めることができた。また、全ての学年においてオンライン添削を実施し、与えられたテーマについて自分の考えを自由に表現する機会を増やすことができた。
- ③ 各学年で自学自習用の参考書や問題集に取り組みさせ、学習への意欲・態度を図る課題として、定期テストの評価に含めることで成果を上げた。

(4) 課題と、次年度以降の改善策

授業アンケートでは、「授業の内容についての説明が分かりやすいと思うことが多い」の項目に関して、1年生の英語コミュニケーションⅠでは90.7%、2年生の英語コミュニケーションⅡでは66.1%、3年生の英語コミュニケーションⅢでは62.3%が当てはまると評価し、生徒はおおむね授業に満足しているという結果であった。また、「タブレット、副教材、ワークシートは授業内容の理解や英語力の向上に役立っている」の項目では、1年生の英語コミュニケーションⅠでは90%、2年生の英語コミュニケーションⅡでは64.3%、3年生の英語コミュニケーションⅢでは63.8%が当てはまると回答し、ICTを用いた授業が成果を上げている。教材提示以外にも、リスニング、音読、英作文指導などにタブレットを活用しているが、今後も研修会や研究大会等を通してICTを使用した新たな取り組みを研究し、授業改善に努める。

家庭科

主任：長尾 美和

(1) 今年度の目標

- ① 人の一生を考えるとという視点から、生活に関する知識と技術を総合的に学習させる。
- ② 興味・関心をもって生活課題を工夫改善する態度を育成する。

(2) 主な取り組みの計画

- ① 生徒の生活力の伸長を視野に、生活を学ぶことに興味をもてる教材の工夫と改善
 - ア 中学校での既習事項や他教科との関連を図り、生徒の実態にあわせた教材を選定する。
 - イ デジタルコンテンツ等を活用し効果的で効率のよい教材を取り入れる。
 - ウ 『模擬体験や作業学習』の取り入れによる自ら気づき学ぶ姿勢を育成し、生徒同士の情報交換を促す。
- ② 学習過程を大切にしたい問題解決学習『ホームプロジェクト』の実践
 - ア 授業で学んだ知識や技術を自らの生活に生かし、応用する力を育てる。

家庭科

主任： 長尾 美和

(3) 成果

- ①ア 家庭生活や学校生活の中で、課題を見つけ興味関心を持てるような教材を取りあげるようにした。毎時間、身近なニュースをテーマに生徒間での意見交換をさせることで幅広い分野に目を向け、地域や日本、世界へ関心を持ち、自分の生活や将来に結び付けられるように取り組んだ。意見交換をすることで、友達の意見を尊重しながら、自分の考えをしっかりと述べる力、コミュニケーション能力の育成にも成果があったと感じる。
- イ 保育の分野では特に、教科書の図や写真で説明するよりも、乳幼児の成長のパネルや動画で示し、実感を得られるように工夫し、理解が深まるようにした。また、分野ごとに自由テーマを設け、個人のタブレットを使い調べ学習をし発表を行った。情報を収集する能力を高め、収集した内容を正確に分かりやすく伝えられるプレゼンの力も、発表回数が増える度に上がってきた生徒が多くみられた。
- ウ 本校の生徒は卒業後、大学進学をする者が多く、一人暮らしでの食生活の管理が重要になってくる。調理実習をとおして、作る楽しさを実感し、基本的な技術を習得させることをポイントとして授業を組み立てた。実習内容も、身近な食材で時間をかけず栄養面でも充実した献立をたてた。実習を行うごとに、作ることは難しい、手間がかかるという概念が生徒の反応を見ると薄れ、調理は楽しく、自分でもできると感じている生徒が多くみられた。
- ② 家庭科は、生きる力を養うための教科である。授業で学んだことを即家庭生活に取り入れ、自らの生活改善を図ることが教科の最大の目的である。ホームプロジェクトでは、さまざまな分野の中で課題を設定し、自分の力で問題解決をし、これからの生活や人生を組み立てていくためのスキルを養える。授業アンケートでは、自分の生活や将来について見直すいい機会となったと感じた生徒が多かった。

(4) 課題と次年度以降の改善策

- ・ 授業の内容が、生徒の生活に密接で、自発的に問題解決ができる力を育てていくかが課題である。授業だけで終わることの無いように、現代社会でのニュースを取り込み、生徒の理解を深め、興味関心を持てる授業内容の精選につながるようにする。また、タブレットを有効的に使用し、情報収集の力や表現力の向上につながるよう取り組む。

情報科

主任：香川 裕之

(1) 今年度の目標

- ① 情報や情報技術を活用するための知識と技能を修得する。
- ② 情報に関する科学的な見方や考え方を養う。
- ③ 社会の中で情報や情報技術が果たしている役割や影響を理解する。
- ④ 情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育む。

(2) 主な取り組みの計画

- ① 『情報化の進展が生活や社会に及ぼす影響を体験させる』 ことにより、情報や情報技術を活用するための知識と技能を修得する。
 - ア 情報社会における問題点とその対策について、講演や動画教材などで学ばせる。
 - イ テックレッスン等の副教材を持たせ、授業以外でも主体的に個別に学べる環境を用意し、必要な時に知識や技能を身につけるように指導する。
 - ウ タブレット端末の利用法の指導などを通じて、インターネットに接続する仕組みや、利用時の注意点を学習し、安全で効果的なインターネットの利用方法を学ばせる。
- ② 『デジタル・ネットワークについての学習』 を通して情報の科学的な理解を図り、情報の安全技術の仕組みを理解させる。
 - ア デジタル情報の特徴や演算の仕組みを学び、コンピュータの特性を学習させる。
 - イ 「ネットワークや情報システムの仕組み」 について理解を深めさせ、セキュリティを「意識しながら、安全に情報をやり取りするための技術を学習させる。
- ③ 『コンピュータを用いた実習（問題解決、シミュレーション、プログラミング）』 に取り組ませることにより、社会の中で情報や情報技術が果たしている役割や影響を理解させ、情報活用の実践力を育成する。
 - ア コンピュータを用いた問題解決を学習する中で、表計算ソフトを利用したデータの分析や、モデル化・シミュレーションを活用できるようにする。
 - イ プログラミングや統計的手法を学び、実践的な問題解決に応用できるように、基本的な考え方を指導する。
 - ウ テックレッスンなどの情報サービスを使って個別最適化された学習環境を利用し、またAIなどを使った問題解決を体験させることで問題解決への意識を育む。
- ④ 『プログラミング言語 Python によるプログラミング』 を学び、プログラミングの技術データ活用に対応できる能力と態度を育む。
 - ア 定期的にプログラミングの課題を体験・提出することで、プログラミング力向上とプログラムコードを読み解く技術を身につけさせる。
 - イ アルゴリズム的発想を学習することでプログラミングの設計思想を学び、プログラミングを通して社会に貢献する意識をもってコミュニケーションを深めていけるような態度を育成する。

情報科

主任： 香川 裕之

(3) 成果

- ① 新課程「情報Ⅰ」の指導も4年目となり、今年の共通テスト「情報Ⅰ」にはより知識と状況判断・思考力を要する問題が出題されてきた。授業ではプログラミング学習を中心に補助教材も活用しながら、学習内容を積極的に活用する実習を行った。
1学期：レポート作成練習、Web ページデザイン学習
2学期：EXCELによるデータ分析実習、コンピュータを用いた実習（シミュレーション、Python プログラミング）
3学期：プログラミング学習（探索、並べ替え）、オリジナルプログラム作成（Python）
- ② 「ネットワーク」「組織による安全対策」などの学習を通して、生徒にコンピュータやネットワークの仕組みについて理解する機会を設けた。
ア Chromebook 等の利用方法や各種サービス（Google for Workspace, Teams 等）の利用を通して、SNS の使い方や情報モラル・セキュリティ意識の向上を図った。
イ テーマに沿った動画を視聴したり、レポート（Web デザイン、プログラミング）を作成することで、著作権の考え方などを、実践的な立場からの理解を目指した。
- ③ 表計算ソフトを用いてのデータの整理・分析やグラフの作成を行い、探究課題の発見や課題発表に役立つ技術を習得させた。
ア データサイエンス学習を通して正しくデータ活用して判断する能力を育成し、情報発信の際の注意点などを確認させた。
イ グラフやシミュレーションを自分で作成することで、見た目だけでなく数値やデータに注目する重要性和効果的に見せるための工夫について理解を深めさせた。
- ④ 授業アンケートでは50%近い生徒が情報を難しいと感じているが、情報自体には関心があり、真面目に取り組んでいる姿が見られる。さらに、情報機器に慣れるなど情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育む必要がある。
ア 日々進化している情報化の話題を授業の中でも紹介するなど、情報化のスピードとその実態をなるべくリアルタイムに実感できるようにした。
イ より具体的な課題で実習に取り組むことで身近にある各種サービスと情報との関連に気づかせ、個人的な情報能力差も踏まえ、定期的なプリントや副教材（Web 教材）の利用を通して生徒が個別的に課題に挑戦できる工夫をした。

(4) 課題と次年度以降の改善策

- ① 1年生はChromeBookになり、上級生や指導者が持っているiPadとはくらべて日常的に活用するときにはWindows 端末やiPadに比べて工夫をしなくてはいけない。同じサービスであるが違う端末で操作する感覚を養ってもらいたい。
- ② 1年生で学んだ「情報Ⅰ」の知識やスキルを、3年生の受験対策時にすぐに復習できるように維持してもらうことが必要である。2年生以降も情報機器を使いこなしながら情報活用を学ぶ機会を増やしていく工夫をしていく。
- ③ 生徒が特に難しいと感じているプログラミングの技術や思考力は、一朝一夕には身につかない。2年生以降も、思考力を磨いていく練習を続けていけるようにChromebookでもできるAIドリルや、共通テスト模試などの一般の学習サービスの紹介もしていきたい。

総合的な探究の時間（TP・テーマプロジェクト）

主任：市場 公美

（1）今年度の目標

- ① 自ら学び考える態度や探究心を育成する。
- ② 関連する資料を収集・分析する能力を育成する。
- ③ プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を育成する。
- ④ 将来のグローバルリーダーとして必要な知識や態度を育成する。

（2）主な取り組みの計画

- ① ア 1、2年次の課題探究では、グループごとに探究題や探究計画を立案し、必要に応じて外部指導者の助言を受けながら探究を進める。
イ 3年次のTPでは、前期は自分の進学先での学びの内容や学び方を整理し、決意表明シートを書く。後期は、現代社会が直面している諸課題を考察する。
- ② ア 1、2年次の課題探究では、グループごとの協議で探究を進め、タブレットを有効活用し、必要な資料等を収集・分析を行う。
イ 3年次のTPでは、教科横断的な様々な課題について必要な資料等を収集・分析し、レポートにまとめる。
- ③ ア 1、2年次の課題探究は、プレゼンテーションや質疑応答を含めた中間報告会や分野別発表会を実施する。
イ 3年次のTPでは、授業ごとのまとめとして、発表する機会をつくる。
- ④ 3年間を通して、グローバルリーダーとして必要な知識や態度を育成するための講演会を実施する。
- ⑤ TP講演会を行い、社会が抱える課題に対する関心と教養を育み、探究活動に生かす。

総合的な探究の時間（TP・テーマプロジェクト）

主任： 市場 公美

（3）成果

1年次では、マイナビの教材使い、また県政出前懇談会を通して、地域に関連した探究題を立て、それに対する仮説を発表する予定である。

2年次では、1年次のときに決定した香川県内地域が抱える課題に焦点を当てた探究題を引き続き探究し、昨年度よりも内容を掘り下げて分析・考察できた。香川県庁各課の協力のもとで地域の状況を理解した上で、フィールドワークやアンケート調査を通して実態を把握し、地元地域が持つ課題への解決策を発表する予定である。また、校外の探究発表会に応募した生徒もいた。

3年次では、前期当初に実施したライフプランニングを通して、将来の目標や自分の理想の生き方を具体化した。また、香川県の抱える課題について、自分の関心のある学問領域の視点から情報を収集、整理・分析し、発表することで、学問と社会がどのように結びついているのか意識づけた。後期では、現代社会の抱える問題について、教科横断的に考察を加えた。3年次の諸活動全体を通して、探究的なものの見方や考え方を伸長することができた。

報告会・発表会では、タブレットで作成したスライドを用いてプレゼンテーションを行い、校内の教員や外部の方からのによる指導助言が行われ、生徒が見落としている部分など知ることができた。

多田野奨学会と京都大学との共催による探究講演会を開催した。また、創立記念講演会などで、先輩から様々な話を聞き、刺激を受けていた。

（4）課題と次年度以降の改善策

探究課題を設定する際に、問いの立て方が不十分なグループがあるので、問いの再設定・明確化できるように促していきたい。

探究課題の進め方で、一部のグループが調べ学習で終わってしまったり、アンケートの取り方が課題にあっていなかったりする。教師が教えてしまうと、主体的な学びにならないので、探究活動の進め方について、他校のやり方を参考にしながら生徒に助言していく。

総務部

部長：白川 直美 副部長：藤田 貴子

(1) 今年度の目標

- ① さまざまなPTA活動を通じて学校と家庭との情報交換を密にすることで学校教育と家庭教育の連携を図り、社会的に有為な人材の育成に努める。
- ② 生徒が母校を大切に思う心を育み、これまでの歴史・伝統を尊重するとともに諸先輩の事績を具体的に学び知ることによって、生徒自身が将来の目標を自主的に確立していきけるように導く。

(2) 主な取り組みの計画

- ① PTA活動
 - ア 「PTAだより」において、生徒の現況や本校の歴史・逸話を特集するなどして保護者に周知し、発展的な将来展望について啓発する。
 - イ 保護者にPTA活動への参加を積極的に呼びかけ、より活性化するよう図る。各委員会・PTA行事が会員の研修および親睦の場となるよう、計画実施する。
- ② 同窓会活動
 - ア 記念館資料と卒業生寄贈図書の整理を進め、見学しやすい展示を工夫することによって、諸先輩の活躍の歴史を生徒に周知し、歴史・伝統ある本校で学校生活を送る自覚と誇りを育む。
 - イ 創立記念講演会など、諸先輩の事績を知る機会を設け、生徒が自らの将来について考えるきっかけとさせる。

総務部

部長：白川 直美

副部長：藤田 貴子

(3) 成果

① PTA活動

ア 「PTAだより」87号（7月）・88号（12月）を作成して学期末に配布するとともに、学校のホームページや配信メールなどを用いて学校の現況などについて情報発信をし、88.6%の保護者から肯定的な評価を得ることができた。

イ 各種委員会活動を活性化し、文化祭においてPTA活動の場を設けるなどして会員同士の研修および親睦を図るとともに、学校への関心を高めることができた。

② 同窓会活動

ア 入学当初のオリエンテーションや文化祭での公開を通じて記念館の紹介をし、諸先輩の事績に親しむきっかけを提供することができた。

イ 社会で活躍する先輩を迎えて創立記念講演会を実施し、生徒の進路意識を高める一助となった。

(4) 課題と次年度以降の改善策

① PTA活動

ア 会員の交流・親睦をさらに深め、よりよい信頼関係を構築することを目指し、ホームページや配信メールなどを活用して各行事について周知し、積極的な参加を呼びかける。

イ 各種委員会活動について、回数や場所など、会の持ち方を見直すことによって負担感を減らし、参加しやすくする。

② 同窓会活動

ア 記念館資料や卒業生寄贈図書収集・整理を進め、展示の仕方を工夫する。

イ 創立記念講演会など、諸先輩の事績を知る機会を設け、生徒が自らの将来について考えるきっかけを作る。

教 務 部

部長： 川原 一浩 副部長： 岡田 直樹

(1) 今年度の目標

① 教育課程の効果的な運用と編成

生徒の適性や進路目標を踏まえ、あわせて豊かな情操を養うことに留意して教育課程を効果的に運用する。学習評価(観点別評価)を適切に行う。

② 学習意欲と進路意識の高揚

授業でのガイダンスや、「テーマプロジェクト(総合的な探究の時間)」、進路学習など、学習活動全般を通して、生徒の学習意欲と進路実現に対する意識の高揚を図る。

③ 校務支援システムの活用

校務支援システムについて、有効かつ確実に運用されるようにする。

④ 情報機器の充実とその整備

校内で使用する情報機器を整備、管理する。

(2) 主な取り組みの計画

① すべての教科について、年度途中で教育課程の実施状況を確認することにより適切な運用を図る。生徒の進路志望に対応するよう、現行の教育課程と学習評価(観点別評価)について、教科と連携して確認する。

② 年度初めに「授業概要一覧表」(シラバス)を生徒に配付し、年間の学習計画及び学習進度を確認しやすくする。1年生のコース選択説明会が行われる時期に、2年用のシラバスの一部を提示し、コース選択の参考とさせる。また、学校行事とTP、ホームルームなどが連携できるよう研究する。

③ 校務支援システムのよりよい活用ができるよう、県教委、委託業者と連携し、現実的な運用に努める。

④ 職員の情報機器活用環境を計画的に整備し、活用の推進を図る。

教 務 部

部長：川原 一浩

副部長：岡田 直樹

(3) 成果

- ① 生徒の実態や適性、進路目標を踏まえた教育課程を運用することができた。学習評価（観点別評価）について、教科内で検討を重ねながら適切に取り扱うことができた。
- ② 授業内で、一人一台タブレット端末を使っている利点を生かし、2、3年生のシラバスは、PDFデータで配信し、日頃から授業進度や評価方法等を確認できた。学校行事、TP、HR等の取り組みにより、生徒の進路意識の向上につながった。
- ③ 校務支援システムの不具合は、担当教員と業者と協議し、改善につながることができた。校務支援システムの運用に関わる役割を分担し、引き続き教員の負担軽減と効率的なシステム運用に努めたい。
- ④ 一人一台タブレット端末の導入により、生徒はメディアリテラシーに気を付けながら、効果的・効率的に活用することができた。教員も、ホワイトボードやプロジェクター、自動採点システムなどのソフトウェアの積極的な活用が見られ、校務の効率的運用や業務量の削減、教員のICTのスキルアップにつながった。

(4) 課題と次年度以降の改善策

- ① 3年間を見通した授業進度、評価の状況、評価方法等を継続して確認したい。また、共通テスト等の動向に注視しながら、進路実現に対応できるよう、教育課程の見直しに努める。
- ② シラバスをPDFデータで配付したことで、生徒は見通しを持った学習計画を立てることができている。引き続き、メディアリテラシーに注意しながらタブレット端末の活用を生徒に呼びかけるとともに、学校行事とTP、ホームルーム等が連携し、より効果的な教育活動が展開できるよう研究を継続する。
- ③ 校務支援システムに大きなトラブルなく運用することができた。引き続き、一人当たりの業務量の軽減と安定したシステム運用が図られるように努める。
- ④ 全教室にホワイトボードとプロジェクターが設置されたことで、タブレット端末の活用が生徒の主体的な学びを支えるツールになりつつある。授業改善の一助としてICTを活用し、研究授業の実施や指導方法等の検討を通して、スキルアップを図るための情報共有や研修をおこなう。

進路指導部

部長：久保 博信 副部長：濱本 圭祐

【1年】自分の将来について考えさせる

(1) 今年度の重点目標

- ① 学習と生活の習慣を確立させる
- ② 自分の進路と適性を考えさせる
- ③ 進路に応じた学習活動を開始させる

(2) 実施内容

- ① 職業や大学の研究と高い志望の設定
… (進路HR、学力テスト、校外模試、英語外部検定、キャンパスツアー)
- ② 自律した生活習慣と家庭学習の確立
・予習・授業・復習のサイクルの確立と継続的な学習計画の立案、実行
… (学習状況調査、進路HR)
- ③ 適切な文系理系の進路選択… (進路HR、コース選択説明会)

【2年】将来をより具体的に見つめ、行動を開始させる

(1) 今年度の重点目標

- ① 具体的な進路と学習の目標を設定させる
- ② 目標に向けた具体的な学習活動の早期開始

(2) 実施内容

- ① 大学・学部研究… (進路HR、オープンキャンパス)
- ② 目標実現のための学習活動の実践
・基礎基本の徹底と中だるみの抑制 … (進路HR、課外、面接)
・高い意識を持つ生徒の層への対策
… (キャンパスツアー、校外模試、英語外部検定、面接)
- ③ 学年後半からの意識改革… (3年0学期、校外模試、進路HR)

【3年】進路目標実現への努力を通して自分を磨かせる

(1) 今年度の重点目標

- ① 高い志と粘り強い姿勢を維持して進路目標の実現を図らせる
- ② 学習活動を通して、社会性・人間性を高める

(2) 実施内容

- ① 高い目標を掲げて着実に努力する姿勢、態度の涵養
・第一志望校の堅持… (面接、進路HR)
・1年間を見据えた学習計画の作成と実行、適切で主体的な進路選択
… (進路HR、面接)
・基礎基本の徹底から応用力の育成へのスムーズな移行
… (課外、校内・校外模試)
- ② 周囲と協力して物事にあたる姿勢や感謝の気持ちの育成 … (進路HR)

進路指導部

部長：久保 博信

副部長：瀨本 圭祐

(3) 成果

校内模試、学力テストは、業者の模試（進研模試等）に比べて、本校生の現状の学力を見据え、その向上を図るための作問、加えて正確な採点を行うため、教員にとっても作問力を鍛え、授業力の向上にもつながる。また生徒にとっても高い目標を達成するために、その目指すべきところを示唆する良問を解くため、作問、採点、返却時の面談は、丸亀高校の生命線となる。昨年度から「校内模試偏差値と合否結果の相関表」を作成することで、客観的に自分の現在の立ち位置を生徒自ら把握できるようにした。また、主に3年には校内模試の教科ごとの成績推移グラフも一人一人、面談時に配布し、校内模試を有効に活用することができた。

キャンパスツアー（東京方面：東大、科学大、一橋大、お茶の水大、早稲田大、関西方面：京都大）も実施し、卒業生との面談を通して、大学に直に触れることができた。特に、東大、京大については大学教授に特別講義もしていただき、満足度は向上した。

進路説明会、進路講演会、コース選択説明会、進路HRも例年通り実施し、文理選択から始まる学部学科の研究等に取り組むことができた。

高校での学習は、その背景を知り、きちんと積み上げて行けば、大学2年くらいまでは特に問題なく進むことができるが、そうでない場合、大学について行けなくなることは多い。その意味で進路自主企画である「学問を愉しむ会」は今後、ますます重要になってくると考える。授業力は進路指導の根幹であることを大切にしていきたい。

(4) 課題と次年度以降の改善策

① 校内模試の引き続きの充実（作問、採点、データの活用）

生徒の学力に対する意識を向上させる（点数を取るだけが学力ではない、その背景を意識することが大切であると理解させる）ため、また作問、採点を通して教員の授業力を向上させるためにも、校内模試の充実を引き続き図りたい。また、今年度と同様、その結果を生徒、担任に還元できるようにしていきたい。

② キャンパスツアーの実施

大学に出向くことは大切なことであるが、その現場で生徒の先輩である本校卒業生と面談することは、さらに大切なことである。幸い、本校卒業生の本校生徒を迎え入れてくれる態度は、本当に頭の下がる思いがするほど見事なものである。この行事を通して丸亀高校としての縦のつながりを引き続き育てていきたい。また、東大においては本校卒業生の中嶋正敏東大教授に温かく迎えていただき、充実した時間を過ごすことができた。また、今年度から連携がとれた京大理学部に加えて、来年度は阪大薬学部とも連携が取れるようになったので、京大と合わせて、関西方面も一泊二日で行いたいと考えている。

③ 「学問を愉しむ会」の実施

今年度は6/18(水)文理英語・文系数学、6/20(金)理系物理、6/21(土)理系化学・理系数学、9/20(土)理系化学、10/1(水)文系数学、10/3(金)理系数学、11/1(土)理系化学、11/5(水)文理英語・文系数学・理系物理、11/11(火)理系数学、12/3(水)文理英語・文系数学・理系物理、12/4(木)理系数学、12/13(土)文系数学・理系数学・理系化学、2/5(木)理系化学と、昨年のお土曜日のみ5回の実施と比べて、平日の放課後にも行えたため、質、量ともに充実したラインナップとなった。開講してくださった先生方への感謝とともに、来年度からも学校行事も見据え、継続的に実施することで、生徒が渴望している「知への欲求」を満たしていきたい。

生徒指導部

部長：福原 毅 副部長：大野 拓生

(1) 今年度の目標

- ①人格のより良い発達をめざし、自律的な生活態度や好ましい人間関係を育てる。
- ②規律ある学校生活を送ることにより、社会規範や法秩序を尊重する精神を培う。
- ③交通ルールと交通マナーを守り、事故防止、自他の安全の確保を徹底させる。

(2) 主な取り組みの計画

- ①ア：全校集会で講話を行い、自主的・自律的な生活態度を育成する。
 - イ：登校指導を行い、挨拶がしっかりできるように声掛けをする。
 - ウ：生徒が安心して学校生活を送れるよう、「学校生活に関するアンケート調査」の実施や面接週間時に担任に悩み事を聞いてもらい、いじめ等の実態を把握する。
- ②ア：全校集会で講話を行い、自主的・自律的な生活態度の育成やマナー指導を行う。
 - イ：毎月服装検査を行い、服装の整備を図る。違反者に対しては事後指導を行う。
 - ウ：遅刻生徒に対しては早朝登校指導を行い、基本的な生活習慣を身に付けさせる。
 - エ：週番活動を通して、環境の整備と基本的な生活態度を育成する。
 - オ：講演会（自転車交通安全教室・情報セキュリティ講座・薬物乱用防止教室）を行い、規範意識の向上を図る。
- ③ア：全校集会で講話を行い、交通ルールの順守や交通マナーの指導を行う。
 - イ：学期始めの校外立哨指導や毎月の登校指導で、交通マナーの育成、及び事故防止の意識を高める。
 - ウ：自転車運転免許講習・丸亀警察署による交通安全教室・交通ホームルーム等を行い、交通ルールの順守や交通マナーの育成、及び事故防止の意識を高める。
 - エ：丸亀警察署と連携し、月1回の朝の街頭指導を行う。
 - オ：県は自転車乗車中のヘルメット着用の推進に向けた取り組みとして、今年度も高校生に対しヘルメット購入費補助事業を継続することとした。このことを全校集会や文書、PTA総会等で生徒及び保護者に周知し、ヘルメットの着用意識を高める環境づくりに協力する。

生徒指導部

部長：福原 毅 副部長：大野 拓生

(3) 成果

- ① 「学校生活に関するアンケート」や面接を実施後、気になる生徒は関係職員に報告し情報共有することで、早期に対応できている。
- ② 今年度は職員だけでなく生徒会の力も借り、朝の登校指導に生徒会役員も一緒に立ち服装整備を呼びかけたことで、学校全体の取り組みであることが浸透してきた。
- ③ 外部講師による具体的な講演や自転車運転免許講習、交通ホームルームを行ったことで、交通法規や事故後の対応について確認できた。また、登下校中の自転車事故も減少した。

(4) 課題と次年度以降の改善策

- ① 週番活動がより活発になってきたことや生徒会の力を借りることができているので、引き続き職員だけでなく生徒からの呼びかけにより、自発的に挨拶をする雰囲気を作っていく。
- ② 週番活動を通しての学級委員長からの呼びかけ及び生徒会の協力等、服装面に関する取り組みは改善しているが、違反者の大幅な減少にはつながっていない。引き続き教員が見つけたらその場で注意する、また、生徒会の力も借りながら生徒の意識を変えていく。
 - ・生徒に持たせている一人一台タブレット端末の不適的な使用で、複数の生徒を指導した。ICT活用推進担当教諭と協力して作成した使用ルールを再度確認させ、守れてない場合には厳しく指導する。
- ③ ヘルメット購入費補助申請及びヘルメット着用についての周知を繰り返し行ったが、あまり効果がなかった。また、次年度からは自転車にも反則金制度が適用されるなど罰則も厳しくなる。引き続き外部関係機関と連携をはかり、道路交通法の改正ポイントを繰り返し周知する。

教育相談部

部長：荻田 千佳子 副部長：福家 真一

(1) 今年度の重点目標

- ① 生徒実態の把握
- ② 関係職員、保護者、専門機関との連携
- ③ 研修活動の充実

(2) 主な取り組みの計画

① 生徒の実態の把握

ア 心理検査 i-check を1年生対象に実施し、生徒の状況を分析・把握できるようにする。

イ 保健室利用状況から、問題を抱える生徒を把握する。

ウ 担任や授業担当者との情報共有、生徒連絡会、学校生活アンケート、入学前アンケートから問題を抱える生徒を把握する。学年団会での情報を教育相談部内で共有し、早期対応ができるようにする。

② 関係職員、保護者、専門機関等との連携

ア SC から可能な範囲でカウンセリング内容を聞き取り、担任に知らせる。

イ 特別支援教育委員会との協働を図るとともに、個々のケース会を実施し、関係職員全員の共通理解を図る。必要があれば、個別の指導計画を担任と共に作成する。

ウ 保護者と連絡を取る。

エ SC やSSW、専門機関との連携を図り、適切な支援を行う。

③ 校内研修会の実施、及び外部研修会への参加

ア 職員への現職教育を実施する。(8月末職員会議後を予定)

イ 校外で行われる様々な研修に参加する。

教育相談部

部長：荻田 千佳子 副部長：福家 真一

(3) 成果

① 生徒実態の把握

- ア 心理検査i-checkを6月初旬に実施した。その結果を生徒の抱える問題の把握に活用することができた。
- イ 養護教諭との連絡を密にすることにより、問題を抱える生徒を把握するだけでなく、生徒の考えや何に困っているかを知ることができ、より具体的な支援につながった。
- ウ 教育相談部会を行うことで情報を共有し、問題を抱える生徒を見守ることができた。

② 関係職員、保護者、専門機関との連携

- ア スクールカウンセラー（以下SC）との面接を行った生徒や保護者について、担任や教育相談担当が知っておけば良いことを聞き取り、支援に役立てた。
- イ 特別支援教育委員会との協働を図るとともに、個々のケース会を実施することで、共通理解を持ったうえで、速やかに支援の方向性や職員の役割分担を決定することができた。
- ウ 状況に応じて、教育相談担当者や担任、学年主任、養護教諭等が保護者と連絡を取ることで、生徒や家庭の状況を把握し、個々の状況に応じた支援を行うことができた。
- エ SCやスクールソーシャルワーカー（以下SSW）等の様々な専門家、生徒の主治医、公的機関等と連携を図り、個々の状況に応じた支援体制を構築することができた。

③ 校内研修会の実施、及び外部研修会への参加

- ア 校内現職教育（8/26実施）を、「生命の安全教育」をテーマに、外部から講師を招いて行った。近年のセクシュアルハラスメントやデートDVなど生徒が直面する可能性のあることについて、そうならないために何を知らなければならないか、どのような考え方をすべきかについて多くの示唆をいただき、理解を深めることができた。
- イ 様々な研修について、情報を共有し、希望者が参加できるようにした。

(4) 課題と次年度以降の改善策

生徒の問題を把握した段階で、関係する部署や職員と密に連絡を取り、学校全体で適切な情報共有を図るといった対応を強化する。問題を抱える生徒に関わる先生方（特に担任）のサポートを行う。必要があれば病院や関係する公的機関とも連携し、早期の対応ができるようにする。

特別活動部

部長：小橋 三知栄

副部長：安藤 優太

(1) 今年度の目標

- ① 生徒会の自主的、自律的な企画・運営
- ② ホームルーム委員会、自由テーマのホームルームの活性化
- ③ ボランティア活動の活性化
- ④ 部活動を通して、規則を守り礼儀正しく、お互い協力し助け合う豊かな人間の形成

(2) 主な取り組みの計画

- ① 生徒会の自主的自律的な企画・運営のために
 - ア 教員・一般生徒との連絡を密にとる。
 - イ 生徒会室の整備とデータ・資料の整理をする。
- ② 自由テーマのホームルームの活性化に向けて
 - ア 事前指導を充実させる。
 - イ ホームルーム委員の運営力育成に向けて担任との連携を強化する。
- ③ ボランティア活動の活性化に向けて
 - ア 丸亀支援学校交流会事前研修・準備・周知活動を充実させる。
 - イ 地域のボランティア活動（募金等）に積極的な参加をめざす。
- ④ 規則を守り礼儀正しく、お互い協力し助け合う豊かな人間の形成に向けて
 - ア 校則や集団の決まりを守らせ、所属感や連帯感を身につけさせる。
 - イ 挨拶や美化活動等を、自主的、自発的に行う態度や習慣を身につけさせる。

特別活動部

部長：小橋 三知栄

副部長：安藤 優太

(3) 成果

① 生徒会の自主的自律的な企画・運営のために

- ア 昨年度の反省を生かしながら、行事の改善化を進めていくことができた。行事内容の見直しをすることで、内容の簡略化などができた。
- イ 各年のデータを参考に、行事等を実施することができた。

② 自由テーマのホームルーム活動の活性化に向けて

- ア ホームルーム委員が自分たちで企画・運営をするように事前に指導した。生徒が主体となりつつ担任とも連携して充実した活動を安全に行うことができた。特に1年生については、過去の実施事例を紹介するなどして、クラスの仲が深まる企画を考えさせた。
- イ 年間計画と実施記録簿の作成を生徒が主体となって行った。計画は担任と連携しつつ生徒自身が中心となって立案した。実施記録簿は丁寧な記入を呼びかけ、記入後の点検にも重点を置き、正確に記入することを徹底した。
- ウ 3年生のスポーツレクリエーションは、学年単位で行った。各クラスで実施内容を募り、ホームルーム委員が中心となって企画・計画・運営を行った。

③ ボランティア活動の活性化に向けて

- ア 参加生徒は事前研修・準備・当日の活動を通して、丸亀支援学校の生徒や斯文祭展示（ふれあいの部屋）の来場者と積極的に関わり、様々な人と接し共生する社会の一端を体験することができた。また「ふれあいだより」を通して他の生徒に対して活動内容を周知した。
- イ 各種募金活動はふれあい委員が中心となり、クラスへの周知・取りまとめを行った。その他、地域や団体主催のボランティア活動については、Classiを用いて効果的に周知することで、各種ボランティアに2名の生徒が応募し、積極的に活動に取り組んだ。

④ 規則を守り礼儀正しく、お互い協力し助け合う豊かな人間の形成に向けて

- ア 部長会を実施し部長を中心に部活動のルール徹底や活性化に取り組むよう指導した。部室の施錠、鍵の保管状況等に問題のある部には再指導を行った。再指導後は改善傾向にある。
- イ 気持ちの良い挨拶ができていない部活動は多くなっている。活動場所、部室等の美化について学期毎に点検を行ったため、意識が向上してきた。

(4) 課題と次年度以降の改善策

- ① 生徒会役員と教員、一般生徒の間の密な連絡を十分に取しながら、学校一丸となって行事の企画・実施をする。実施後のアンケートや記録を整理し、次年度の行事に生かす。
- ② ア 自由テーマのホームルームは、クラスによっては企画内容がレクリエーションになってしまっているため、自己表現を含む活動を促すよう指導する。
イ 少なくとも実施の1週間前には担任に相談することを徹底し、誰もが安心して参加できる内容で実施するようにする。特にスポーツレクリエーションについては複数で監督し、生徒の安全性を確保する。
- ③ 生徒のボランティア活動への意識がそれほど高くないように思われる。募集及び報告について、周知・掲示だけでなく広く呼びかけるなど工夫する。
- ④ 部長、理事を集団のリーダーとして成長を目指すことに重点をおき、顧問と連携しながら取り組む。各部の大会、発表会や校内行事の機会をとらえ、部員の一人として自発的に美化活動や挨拶ができるように指導する。

人権・同和教育部

部長：市村 拓二 副部長：大村 享寛

(1) 今年度の目標

- ① 生徒一人ひとりが主体的に人権課題について考えることができるホームルームを構築する。
- ② 各教科・科目、校務分掌でのすべての領域に人権教育の視点を導入する。
- ③ 現職教育をさらに進める。
- ④ 機会をとらえ人権意識の重要性について全体に働きかけていく。
- ⑤ PTA活動を通じて、保護者への啓発活動をさらに進める。
- ⑥ 地域との連携を深め、差別の現実から学ぶ。

(2) 主な取り組みの計画

- ① 参加体験型の人権・同和教育ホームルームの回数の漸進的増加と差別解消に向けての実践力の育成
 - ア 2年生を対象に同和問題学習会を行い、その成果をホームルームで発表して「差別の現実に学ぶ」体験を学級の生徒と共有する。
 - イ 各学年団のホームルームのなかで参加体験型の人権・同和教育の比重を増やすとともに、ICT機器を積極的に活用する。
 - ウ 参加体験型ホームルームの構築に向けて、校内研修を行うとともに、各種研修会へ人権・同和教育部教員が積極的に参加する。
- ② すべての教育活動における人権教育的視点の導入と研修機会の提供
 - ・職員会議や人権だより等でタイムリーな話題を提供したり、昨今の人権・同和教育の動向を紹介したりして、研修回数を増やす。
- ③ 全校集会などの機会を捉えて全体に人権尊重の重要性を訴えていく。
- ④ 保護者啓発の推進
 - ・人権講演会への参加を促し全保護者への啓発を推進するとともに、現職教育にも招待して教員と保護者がともに学ぶ機会を設ける。PTA役員を中心に市や県の研修に参加を依頼する。学期に一回、保護者向けに人権・同和教育だよりを発行し、人権教育への理解を促し啓発に努める。
- ⑤ 地域との連携
 - ア 教員に現地研修会や夏祭り、文化祭への参加を呼びかける。
 - イ 同和問題学習会のなかで、同和地区において差別解消に向けて努力している人と生徒との意見交換を行う。またそれをホームルームで共有する。

人権・同和教育部

部長：市村 拓二

副部長：大村 享寛

(3) 成果

- ①ア 人権・同和教育ホームルームについては、計画通り2年生ホームルーム委員による同和問題学習会を12月に実施し、当事者の方から直接話を聞くことができた。翌月のホームルームでそれをクラスで発表し、学級全体で学びを共有することもできた。
- イ 参加体験型のホームルームは昨年度並みで増やすことはできなかった。ICT機器を積極的に活用したことで、効率的に多くの学習内容を盛り込むことが可能となり、また生徒どうしが意見を共有することで、多様な価値観や考え方を理解しあう機会を増やすことができた。
- ウ 参加体験型ホームルームの構築に向けて、人権・同和教育部会や学年団会を通じて、校内研修を実施することができた。
- ② 今年度は県教委人権・同和教育課による出前授業を行った。ここ数年で注目されるようになったマイクロアグレッションなど、人権問題を取り巻く最新の課題について学ぶことができた。今年度も全・定・通とも大勢の教職員が参加した。また現地研修会や各研究大会等の参加報告も予定通り実施した。
- ③ 今年度の人権講演会は、広島原爆被爆体験者による講話を行い、全校生徒・教職員が参加した。当時を知る方が減りつつある中で、体験者から直接話を聞いて「知る」だけでなく、それを「語る」ことの大切さも学ぶこともできた。また1年生2学期の障がい者のホームルーム、2年生1学期のアイヌの人々の人権問題は、昨年度に続き、学年集会形式で実施した。
- ④ 現職教育では昨年度に続いて保護者の参加があり、教職員と学びを共有することができた。PTA総会での講話も例年通り実施した。PTA研修委員・育成委員が中心となって、予定していた香川県や丸亀市が主催するすべての研修会に参加できた。保護者版「人権だより」は今年度も年3回配信し、同時に配信したアンケートでは、毎回多数の保護者から貴重な意見を頂き、今後の活動に大いに参考となっている。
- ⑤ア 現地研修会は金山文化センターで実施し、保護者の方にも参加していただいた。また文化祭等へも参加できた。
- イ 金山文化センターから講師を招き、差別解消に向けて長年活動されている方と生徒との意見交換を行うことができた。また参加生徒は「差別の現実に学ぶ」意義を認識し、この問題を「自分ごと」としてとらえようとする姿勢がうかがえた。

(4) 課題と次年度以降の改善策

昨年度に見直したホームルーム計画を今年度も踏襲し、スムーズに実施することができた。しかし各回で取り入れている視聴覚教材は、内容が優れているため長い間継続して使用しているが、年代の古さを感じざるを得ない。「マイクロアグレッション」などの新たな題材の導入を検討するとともに、新しい教材の発掘にも努めていきたい。また人権問題を「自分ごと」ととらえられるよう、参加体験型のホームルームをより多く取り入れていきたい。

保健部

部長：桜井 謙一郎

副部長：富川 妙日子

(1) 今年度の目標

- 1 生徒、職員の心身の健康の保持増進
- 2 防災対策と地震発生時の安全行動の確認
- 3 積極的な清掃活動による環境美化と生活環境の整備
- 4 校内の設備・備品の把握と故障、破損した備品の修理、交換

(2) 主な取り組みの計画

1① 健康診断

- ア 事前に「健診の意義」や見つかる病気等について周知し、健康に関して関心を持たせるとともに、自分の健康状態について把握できるようにする。
- イ 健康診断の結果、異常がある場合は、早めに医療機関に行くように生徒に指導するとともに、懇談などの機会を利用して保護者にも連絡する。

② 健康管理

- ア 心肺蘇生法の講習会（実施日：6/10 1年生・教職員対象）を行う。
- イ 保健室来室時に「利用カード」を記入させ、体調を崩した原因や生活習慣について考えさせる。
- ウ 保健室前の掲示板や黒板に、様々な健康に関する資料を掲示することにより、生徒が健康に関して興味や関心を持つようにさせる。

③ 生徒保健委員会

- ア 「保健だより」を作成して、SHRなどでその時々健康に関する説明を行う。

④ 心の健康

- ア 保健室利用状況を担任や学年主任等に知らせることにより、心の問題を抱える生徒を早期に発見し、関係職員やスクールカウンセラーおよび保護者と連携し、支援する。
- イ 3年生対象に献血セミナーを実施し、献血の意義や血液製剤について理解を深める。

⑤ 性教育

- ア 2年生はHRで外部講師による「生命の健康教育」についての講演会を行う。

⑥ 環境の整備

- ア 水質検査、教室の照度や空気検査など「環境検査」の結果を知らせて環境に関心を持たせる。
- イ 冷暖房時の温度設定や換気など「適切な管理」ができるようにする。

⑦ 学校衛生委員会

- ア 衛生委員会を年間10回開催し、職員の健康増進を図り、職場環境を整備する。

2 防火・防災

- ア 学校防災計画を策定し、避難訓練や1年生を対象に防災訓練を実施する。

3 清掃活動

- ア 日々の清掃や学校行事前等の大掃除を充実させ、校内くまなく美化が図られるようにする。
- イ 清掃用具の修理、補充を適切に行い、十分に清掃活動が行えるようにする。
- ウ 安全点検や部室点検を学期に1回実施し、危険箇所を早期に把握し、修繕する。

4 施設管理

- ア 各教室の机・椅子の数を把握・修理を行い、老朽化したものは計画的に交換する。

保健部

部長： 桜井 謙一郎 副部長： 富川 妙日子

(3) 成果

① 生徒、職員の心身の健康の保持増進

- ① イ 治療勧告通知を、健康診断翌日に生徒に配布したことが、早期受診につながった。
- ② ア 心肺蘇生法講習会を、火曜日実施にしたため、年2回から1回に変更することができた。全定通教職員と1年生を対象に、6月（日本赤十字香川県支部）に実施し、技術の習得に努めた。
 - イ 保健室利用記録で生活リズム等を把握し、健康教育につなげることができた。
 - ウ 保健室前の掲示板へ健康に関する資料を定期的に掲示した。生徒は休憩時間や移動教室等で通行する際に見ている様子があった。また、廊下に設置している身長計・体重計は利用者が多く、健康の自己管理のきっかけとなっている。
- ③ ア 野球応援では、事前に熱中症予防に関する保健だよりを発行した。当日は、生徒保健委員が救護補助員として活動し、応援生徒の熱中症を未然に防ぐことができた。
- ④ ア 保健室利用状況や利用時の様子から、心の問題を抱える生徒を早期に発見し、担任や教育相談部と連携し、スクールカウンセラーやソーシャルワーカーへの相談や支援へつなげることができた。
 - イ 3年生を対象に、今年度は献血セミナー（10月）を開催した。献血バスの来校を、7月と12月の2回実施した。献血セミナー実施後の12月は献血協力者が増加した。
- ⑤ ア 性教育は、2年生を対象に「生命の安全教育」についての講演会を開催した。生徒の感想では、デートDVや性暴力のこと、性被害にあったときの対処法、SNS利用と性被害についてが多くみられ、身近な問題として捉えられている様子や関心が高い様子が伺えた。
- ⑥ イ 学校薬剤師の協力を得て、環境衛生検査に取り組んだ。12月教室内の空気検査では、換気効率を上げる方法について助言を得て、生徒会の環境活動の参考とした。
- ⑦ ア 毎月の校内巡視結果を元に、特に施設設備面に関して改善することができた。（1体入口センサーライトの設置など）衛生委員会に準ずる取り組みでは、学校医等による健康相談が定着しつつあるので、次年度も実施と周知を続ける。

② 防災対策と地震発生時の安全行動の確認

- ⑧ ア 防災訓練に関しては、9月、1年生を対象に丸亀市危機管理課、丸亀市城西地区自主防災会、丸亀市川西地区自主防災会の協力を得て防災研修を実施し、訓練の大切さを実感させることができた。

③ 積極的な清掃活動による環境美化と生活環境の整備

- ⑨ イ 環境整備委員が中心となり、各清掃場所の用具の修理、補充を計画的に行うことができた。

④ 校内の設備・備品の把握と故障、破損した備品の修理、交換

- ⑩ ア 各教室の机・椅子に教室番号を記載し、移動した場合においてもスムーズに行うことができ管理しやすくなった。

(4) 課題と次年度以降の改善策

- ・校内巡視で危険個所の指摘があっても、予算の都合により、すぐには改善できない場合がある。そのため、こまめに注意喚起を行って、トラブルが発生しないようにする。
- ・本年度は例年より早い時期に、インフルエンザが大流行し、本校においても学年閉鎖や学級閉鎖の措置を講じることとなった。次年度においては、感染拡大を防ぐために、早期感知、早期対応に努めることはもちろん、日頃から感染防止のための保健指導を行う必要がある。

教育研究部

部長：荒井 裕子 副部長：市場 公美

(1) 今年度の目標

- ① 教科・課題探究や学校行事でより教育効果が得られるように、読書週間などを活用して、図書館利用の促進を図る。
- ② 次世代のグローバルリーダーとして必要なスキル(情報収集力・発信力・語学力・コミュニケーション能力など)の育成のためのプログラムを実施し、あわせて各教科の科学オリンピック等への参加を促す方法を検討する。
- ③ 生徒にとってタブレットが「学びを深めるもの」になるよう、タブレット等のICT教材を活用した授業研究を行い、教員全体の授業デザイン力の向上を図る。
- ④ 学校評価活動について、実施内容や方法、学校評価書を本年度の実態に合わせ、教員の業務改善に、より大きな効果が得られるよう工夫する。

(2) 主な取り組みの計画

- ① ア 「図書館だより(図書館通信)」「図書委員活動」「サテライト図書室」等を利用したり、学級文庫を充実させたりすることによって、読書活動の推進を図る。
イ 図書管理システムを円滑に運用する。
- ② ア 総合的な探究の時間を利用して以下の活動を実施する。
 - a 課題探究(情報収集力・コミュニケーション能力等の育成)
 - b T P講演会(社会が抱える課題に対する関心と教養を育み、探究活動に生かす)イ 生徒の各科学オリンピック等への参加を促すため、生徒一人一人への周知を行い、また各教科を支援し、それらの結果をとりまとめる。
- ③ ア 経年研修等で実施される研究授業に、各教科からも授業参観と合評会へ参加することで教員全体の授業デザイン力の向上を図る。また、授業参観週間での相互の授業参観の推進を図る。
イ タブレット等のICTを活用した授業研究を行い、研究授業等に取り入れる提案や研修を行う。
ウ キャリア・パスポートの作成等、タブレット等を効果的に活用できる方法を検討し、実施する。
- ④ ア 学校評価のための基礎資料収集を、項目などを精選して次のとおり行う。
 - a 生徒による授業評価
 - b 教員による自己評価
 - c 卒業間近の生徒による学校評価
 - d 卒業間近の生徒の保護者による学校評価イ 公開授業(4月、11月)のアンケート集計と分析を適切に行う。

教育研究部

部長：荒井 裕子 副部長：市場 公美

(3) 成果

- ① ア 読書週間、図書委員活動（電子版図書日より、サテライト図書室）により、図書推進を図ることができた。職員の学校評価アンケートで「（本校の図書活動は）読書活動を推進している」は97.4%、3年生に対する学校評価アンケートで「（本校の図書活動は）読書のために有効である」は81.4%（昨年比+7.7pt）と高かった。「読書感想文コンクール」では、県に応募したものの、残念ながら今年度は受賞者なしである。
イ 電子貸出システムが年間を通じ運用中である。
- ② ア 教科「TP」を参照
イ 「科学の甲子園」香川県予選に参加したが、優勝は逃した。
- ③ ア ICTやタブレットを活用した授業を研究し、研究授業を実施した。教員の「本校で実施した研究授業・授業参観等は本校職員の授業力向上に役立った」は92.3%（昨年比+2.7pt）と、ICT教材を活用した他の教員の授業を参考にして、様々な教科の授業や場面でICTを活用できるようになってきているのではないと思われる。
イ タブレットやプロジェクター等の情報機器や視聴覚機器の活用について、3年生に対するアンケートで「情報機器や視聴覚機器は理解を深めるために有効だった」は94.4%（昨年比+10pt）、職員の「情報機器や視聴覚機器は充実させている」が97.4%（昨年比+0.9pt）と、普段の授業でICTを活用することで、生徒の充実した学びに繋がっている。また、AI利用についての現職教育も行った。
ウ キャリアパスポートとしてClassiメニューの学習記録やポートフォリオを利用しているが、生徒の利用はまばらであるのが現状である。
- ④ ア 生徒による授業評価について、3年生に対する学校評価アンケートで「生徒からの授業評価が授業改善に活かされている」は62.5%（昨年比-5.0pt）と生徒の声を授業改善に活かしていると感じている生徒がいる一方で、「あてはまらない」と感じている生徒が28.8%と比較的高い。また、職員の「生徒からの授業評価は、授業改善が図られている」が94.8%であり、授業評価を授業改善に役立てようとしていることが分かる。
イ 公開授業は、1学期4月のPTA総会の時と、2学期11月の1年生のコース説明会に合わせて実施した。「公開授業の実施は学校での生徒の様子を知る良い機会」と捉えている保護者は79.6%と高かった。

(4) 課題と次年度以降の改善策

- ① アンケートでは読書活動に対する生徒の評価が例年よりも高かった。図書室や書籍の利用を積極的に行ってくれた学年だったのかもしれないが、授業で文学作品に触れる機会が少なくなったこともあり、引き続き読書推進活動は必要である。また、タブレット世代の生徒達が利用しやすくするためにも、電子書籍を扱うことも考える必要があるだろう。
- ② 各種オリンピック等の参加はほとんどないという現状だが、生徒各自でオンライン申込、参加しているものもあり、学校が把握するのが難しくなっている。生徒の自主性、積極性を重んじながら、開催の案内をし、参加生徒へはポートフォリオへの入力を促す。
- ③ 授業に活用するためのタブレットやプロジェクターなどの情報機器、視聴覚機器が充実してきている。ICTを活用した授業の展開の幅も広がりを見せ、生徒の学びを充実したものとしている。今後も、タブレット等を活用した授業研究を進めたり、使用に関する教員の情報共有の場を設けたりしたい。
- ④ 授業評価アンケートにおける授業改善について、生徒と職員の解答に乖離が見られる。アンケートはClassi等で集計されているが、生徒がどのような授業改善を望んでいるのか、アンケートの問いかけを各教科で工夫してもらいたい。生徒からの授業評価アンケート結果は、授業改善に向けて活用されているという評価が高いので、今後とも続けていきたい。

定 時 制

(1) 今年度の目標

- ① 主体的に学び続け、地域社会の課題の発見・解決に貢献できる生徒を育成する。
- ② 自分の個性を伸ばし進路を切り拓いて、社会的・職業的自立ができる生徒を育成する。
- ③ 多様な他者と協働し、集団や社会に積極的に参画できる生徒を育成する。

(2) 主な取り組みの計画

授業や学校行事、生徒会活動、部活動等のあらゆる教育活動を通じて、以下の7つの力を育くむことができるように支援する。

- ① 読解力
文章や資料を正確に読み取り、主張や要点を把握し、その価値や意義を説明できる。
- ② 論理的思考力
適切な根拠をもとにして論理的に思考し、説得力や独自性のある考えを創り出すことができる。
- ③ 表現力
伝えたいことを、的確で説得力のある文章で表現し、相手に分かりやすく工夫して発表できる。
- ④ コミュニケーション力
相手の意見を理解し、聞き手のことを考えながら自分の意見を伝えることができる。
- ⑤ 協働力
所属する集団のなかで、自分の役割と責任を自覚し、集団としてめざす目標の達成にむけて活動できる。
- ⑥ 行動力・実行力
自分の発言や行動に責任をもち、やるべきことを自ら見つけて主体的に行動できる。
- ⑦ 自己管理力
自分の健康状態や環境を把握し、目標や目的に基づいて計画を立て、効果的で効率的な時間運用をすることができる。

定 時 制

(3) 成果

- ① 授業評価アンケートにおいては、全てのアンケート項目において、96%以上の生徒が肯定的な回答をしている。目的意識をもって前向きに授業を受けることにより、基礎学力の定着が促されるだけでなく、生涯にわたって主体的に学び続ける姿勢の育成にも寄与すると考える。これからも、生徒と教員が協力し、よりよい授業づくりを行いながら、生徒が興味・関心をもち、前向きに授業を受ける環境を作っていきたい。
- ② 社会的・職業的自立ができる生徒を育成するために、上級学校や企業（今年度は企業2社）を訪問したり、外部から講師を招き進路講演会を行ったりした。進路に関する様々な内容の行事を行うことで、卒業後の進路について考える機会を生徒に与え、学年に応じた生徒の進路意識を高めるきっかけ作りを行うことができた。これからも、継続して生徒に進路に関する情報を積極的に提供し、行事を活用しながら生徒の進路意識をさらに高めていきたい。
- ③ 学校行事を活用することで、外部の方や他学年の生徒と関わりをもち、多様な考え方に触れたり、他者と一緒に活動したりする機会を確保した。各種行事では、普段の教室とはまた違った、生徒のいきいきとした様子を随所で見ることができた。また、講演会等の感想からも前向きな意見を読み取ることができた。学校行事を通して、他者を尊重し、お互いに協力しあうことができる集団作りをこれからも行っていきたい。

(4) 課題と次年度以降の改善策

家庭状況等も含め、一人ひとりがある背景が多様であるため、機会を逃さず、いかに個に応じたきめ細やかな指導を行っていくかが課題として挙げられる。毎日のミーティングや週1回の職員会を活用したり、SC、SSW、JSTとも連携を密にしたりして、全職員で生徒の状況をしっかりと共有しながら生徒の指導を行う。

通 信 制

(1) 今年度の目標

自律的な学びを通して、社会生活の基盤となる資質・能力や態度を身につけるとともに、自ら高め、自他を尊重する心を持ち、自立して社会の中で生き抜く力を育成する。

(2) 主な取り組み

めざす生徒像

- ① 自学自習をとおして自主的・主体的態度を身につけ、社会で生きるために必要な能力をもつ生徒
- ② 自分を大切にするとともに、他者への思いやりの心を持ち、社会に適応できる能力をもつ生徒

1年次目標

- ア) 自学自習の習慣を身につけ、レポートを作成する力を身につける。
- イ) スクーリングに積極的参加し、学びを深める。
- ウ) 学校行事に参加し、生徒同士や教員との親交を深める。

2年次目標

- ア) 自分に合った科目選択を行い、興味・関心をもって意欲的に学習をする。
- イ) 自分の適性について考え、卒業後の進路についての意識を高める。
- ウ) 学校行事に積極的に参加し、協働して活動する。

3年次以降目標

- ア) 自学自習で身につけた主体的に学びに向かう力を生かして、生涯にわたって学ぶ力を身につける。
- イ) 明確な進路意識を持ち、自身の適性を理解したうえで進路選択を行う。
- ウ) 学校を中心として行事を企画し運営するなかで、人間性と社会性を高める。

通信制

(3) 成果

- ① 受講科目手続き時、新入生研修、各学年のLHR等で生徒に対し個に応じた必要な指導を行い、報告課題・面接指導（視聴票）・定期考査等の相互に関連したシステムを適切に運営しつつ、生徒の自学自習と単位取得を支援し、その過程での人的成長を支えた。
- ② 新入生研修、新入生歓迎行事、定通総体（県・全国）、生活体験発表会（校内・県）、斯文祭、レク大会、遠足、生徒総会を実施し、協働的態度や人間性・社会性の伸長を促した。
- ③ 卒業クラス51名のうち12月末現在で43名（84%）が卒業見込みである。現3年生では正社員として働きながら学業との両立を果たしてきた生徒は3名である。また大半の生徒がアルバイトをしながら学業との両立を図ってきた。学級担任はそのような個々の生徒の希望や状況に応じて進学指導や就職指導を行った。12月末現在では卒業見込者43名のうち、進学内定者が10名、新規の就職内定者が4名である。

(4) 課題と次年度以降の改善策

- ① 通信制課程独自のシステム（報告課題・面接指導・視聴票・定期考査等）への理解が不十分な生徒は学習中断や原級留置となる可能性が高くなるため、入学前の事前相談、受講手続き、LHR等での指導を手厚く行う。また、通信制課程のシステムを十全に理解している生徒にとっても、仕事と学業の両立を維持することは困難であるため、学級担任が、適宜、指導やアドバイスをすることで予防的指導を一層充実させる。
学校評価アンケートでは、通信制課程を選んだ理由として、「高校は卒業しておきたかったから（57名/74%）」、「毎日学校に通うのが困難だったから（29名/37.7%）」という傾向が顕著であった。また、報告課題や面接指導のシステムも生徒にとっては複雑であるため「通信制のシステムを分かりやすく教えて欲しい」という要望が多い。（23名/29.9%）
- ② 報告課題にNHK高校講座のピンポイント動画のQRコードを掲載し、かつ面接指導をスライドや動画を活用して行うなど科目担当者は工夫をしているが、40名（52%）の生徒が面接指導の内容を「難しい・とても難しい」と感じており、48名（62%）が報告課題を「難しい・とても難しい」と感じている。報告課題とNHK高校講座の関連づけは定着しつつあるので、次年度も続行し、生徒の理解の深化につなげたい。
- ③ 進路希望は、1年（進学：58%、就職：21%）、2年（進学：32%、就職：32%）、3年（進学：42%、就職：42%）であり、仕事や子育てと学業を両立している30代・40代の生徒も含まれている。進学を希望する生徒がやや増えつつある状況が背景にあるが、多様な背景をもつ生徒が集う通信制課程を終始一貫する目標は「卒業」である。学級担任と科目担当者が連携プレーをすることで、卒業という大目標に向けての、個々の単位取得や進級への指導を一層充実させる。

学校評価アンケート結果の比較（3年間）

①ほとんどあてはまる ②あてはまるところがある ③あまりあてはまるところがない ④ほとんどあてはまらない ⑤わからない

総務 A 1	教員	P T A 総会や P T A だより、学校ホームページや学校配信メール等を通して、学校の実態を保護者に発信し、その理解・協力を得られている。
	3年生	
	保護者	丸亀高校では、P T A 総会や P T A だより、学校ホームページや学校配信メール等を通して、学校の情報を知ることができた。
教務 B 1	教員	校務支援システムは、本校の実情に応じて改訂・調整され、校務実施の助けとなっている。
	3年生	
	保護者	
教務 B 2	教員	生徒の適性や進路目標を踏まえ、豊かな情操を養うことに留意して、教育課程を編成し、適切に運用できている。
	3年生	丸亀高校では、生徒の適性や進路目標を踏まえ、かつ豊かな情操を養うことに留意した教育課程が編成されていた。
	保護者	丸亀高校における授業のカリキュラムは、生徒の適性や進路目標、そして情操に配慮した教育課程（授業のカリキュラム）を編成し、適切に運用されていた。
教務 B 3	教員	授業やホームルームにおける教師の指導や、「T P（総合的な探究の時間）」等での外部講師による講演会は、生徒の学習意欲と進路意識の高揚につながっている。
	3年生	
	保護者	
教務 B 4	教員	丸亀高校では、学校案内の発行等により、中高連携を図っている。
	3年生	
	保護者	
教務 B 5	教員	丸亀高校のシラバスは、生徒が1年間の学習計画を理解するために役立っている。
	3年生	丸亀高校では、年度当初に配られたシラバスを見ることで、年間の授業計画の概要を理解することができた。
	保護者	
教務 B 6	教員	一人一台端末の導入を含めた授業等における I C T 機器の活用は、授業改善及び生徒の学びの改善につながっている。
	3年生	
	保護者	
進路 指導 C 1	教員	進路ホームルーム・コース選択説明会・キャンパスツアー等は、生徒が自らの志望と適性を見つめつつ、自らの進路目標を具体化させることに有益である。
	3年生	丸亀高校における、進路ホームルーム・コース選択説明会・キャンパスツアー等の行事は、自らの進路について考えるよい機会となった。
	保護者	丸亀高校における、進路説明会・コース選択説明会等の行事は、進路について考えるよい機会となった。
進路 指導 C 2	教員	学習状況調査・進路ホームルーム・課外・面接等は、生徒の自律的な学習習慣の確立への力となっている。
	3年生	丸亀高校では、学習状況調査や進路ホームルーム、面接など、生徒が継続的な学習が行えるよう、適切な学習指導が行われていた。
	保護者	丸亀高校では、生徒に学習習慣が確立するよう、適切な学習指導が行われていた。
進路 指導 C 3	教員	丸亀高校では、生徒が自分の将来を考え、その実現のために努力ができるような指導が行われている。
	3年生	丸亀高校では、生徒が自分の将来を考え、その実現のための努力ができるような指導が行われていた。
	保護者	丸亀高校では、生徒が自分の将来を考え、その実現のために努力ができるような指導が行われていた。
進路 指導 C 4	教員	丸亀高校での3年間の指導は、生徒を学力的・社会的・人間的に成長させるのに効果的である。
	3年生	
	保護者	生徒は、この3年間に様々な経験を経て、学力的・社会的・人間的に成長できた。

R7年度					R6年度					R5年度				
①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤
67.5%	30.0%	0.0%	0.0%	2.5%	73.3%	26.7%	0.0%	0.0%	0.0%	80.6%	19.4%	0.0%	0.0%	0.0%
49.4%	39.2%	9.7%	0.0%	1.7%	48.0%	39.0%	7.3%	1.7%	4.0%	55.7%	34.1%	8.1%	1.1%	1.1%
40.0%	55.0%	0.0%	0.0%	2.0%	46.7%	40.0%	6.7%	3.4%	3.2%	45.2%	45.2%	6.5%	0.0%	3.2%
47.5%	50.0%	2.5%	0.0%	0.0%	43.3%	56.7%	0.0%	0.0%	0.0%	51.6%	41.9%	0.0%	0.0%	6.5%
39.9%	46.6%	9.0%	2.2%	2.2%	48.1%	39.3%	6.5%	2.3%	3.8%	54.9%	33.6%	5.6%	1.1%	2.2%
34.1%	48.3%	6.3%	1.7%	9.7%	44.6%	40.1%	4.5%	1.1%	9.6%	44.9%	40.5%	6.5%	3.2%	4.9%
35.0%	57.5%	7.5%	0.0%	0.0%	36.7%	60.0%	3.3%	0.0%	0.0%	41.9%	51.6%	0.0%	3.2%	3.2%
25.6%	56.4%	5.1%	0.0%	12.9%	43.3%	30.0%	6.7%	0.0%	20.0%	48.4%	38.7%	0.0%	0.0%	12.9%
20.5%	61.5%	12.8%	0.0%	5.1%	23.3%	66.7%	0.0%	3.3%	6.7%	29.0%	51.6%	12.9%	3.2%	3.2%
52.6%	35.4%	10.1%	1.1%	0.7%	56.9%	28.6%	9.2%	0.4%	5.0%	60.8%	27.6%	7.1%	1.5%	1.1%
38.5%	56.4%	5.1%	0.0%	0.0%	43.3%	56.7%	0.0%	0.0%	0.0%	54.8%	45.2%	0.0%	0.0%	0.0%
64.1%	33.3%	0.0%	0.0%	2.6%	69.0%	31.0%	0.0%	0.0%	0.0%	58.1%	41.9%	0.0%	0.0%	0.0%
49.3%	35.8%	12.7%	1.5%	0.7%	51.5%	32.4%	7.6%	0.8%	7.6%	58.2%	28.4%	7.8%	1.1%	3.0%
58.5%	35.8%	4.0%	0.0%	1.7%	59.3%	30.5%	2.8%	0.0%	7.3%	64.3%	25.9%	6.5%	1.1%	2.2%
51.3%	46.2%	0.0%	0.0%	2.6%	55.2%	44.8%	0.0%	0.0%	0.0%	51.6%	45.2%	0.0%	0.0%	3.2%
52.2%	38.1%	7.8%	1.1%	0.7%	53.1%	36.6%	5.3%	0.8%	4.2%	65.7%	24.6%	5.2%	0.4%	1.9%
43.8%	39.2%	8.5%	0.0%	8.5%	48.0%	34.5%	7.9%	1.1%	8.5%	52.4%	35.1%	6.5%	1.1%	4.9%
51.3%	48.7%	0.0%	0.0%	0.0%	44.8%	55.2%	0.0%	0.0%	0.0%	51.6%	45.2%	0.0%	0.0%	3.2%
49.6%	39.9%	8.2%	1.1%	1.1%	50.8%	36.3%	6.1%	0.8%	6.1%	63.8%	27.2%	4.5%	1.1%	2.2%
43.2%	46.0%	5.1%	0.0%	5.7%	46.3%	37.9%	6.2%	0.0%	9.6%	56.2%	31.9%	5.4%	1.6%	4.9%
43.6%	51.3%	2.6%	0.0%	2.6%	38.0%	62.0%	0.0%	0.0%	0.0%	45.2%	51.6%	0.0%	0.0%	3.2%
63.6%	33.0%	3.4%	0.0%	0.0%	61.0%	31.6%	1.7%	0.0%	5.6%	69.7%	25.9%	1.1%	1.6%	1.6%

学校評価アンケート結果の比較（3年間）

①ほとんどあてはまる ②あてはまるところがある ③あまりあてはまるところがない ④ほとんどあてはまらない ⑤わからない

教育研究 D 1	教員	図書館便り・読書感想文・学級文庫・読書の時間・サテライト図書室等を利用して、読書活動を推進している。
	3年生	丸亀高校の図書館便り電子版・読書感想文・学級文庫・読書の時間・サテライト図書室などは、読書のために有効であった。
	保護者	
教育研究 D 2	教員	丸亀高校では、授業での活用を図るため、情報機器、視聴覚機器を充実させている。
	3年生	丸亀高校の授業・行事で活用された、プロジェクターやタブレット等の情報機器や視聴覚機器は、理解を深めるために有効だった。
	保護者	
教育研究 D 3	教員	丸亀高校では、生徒からの授業評価や、公開授業等を実施し、授業改善が図られている。
	3年生	丸亀高校で行われた、生徒からの授業評価は、授業に活かされていた。
	保護者	
教育研究 D 4	教員	丸亀高校では、英検等の検定による生徒の資格取得や、科学の甲子園等への参加を促す活動を行っている。
	3年生	
	保護者	
教育研究 D 5	教員	本校で実施された研究授業・授業参観などは、本校職員の授業力向上に役立っている。
	3年生	
	保護者	丸亀高校における公開授業日（授業参観）の実施は、学校での生徒の様子を知るよい機会となった。
生徒指導 E 1	教員	丸亀高校では、生徒が自発的なあいさつを行ったり、相手を尊重した言動をとることができるようになるための指導が行われている。
	3年生	丸亀高校では、自発的なあいさつや、相手を尊重した言動をとることをうながす指導や雰囲気作りが行われていた。
	保護者	丸亀高校では、生徒が自発的なあいさつを行ったり、相手を尊重した言動をとれるようになるための助けとなるような雰囲気作りや指導が行われていた。
生徒指導 E 2	教員	丸亀高校では、早朝登校指導や校外交通立哨、服装検査、週番活動、外部講師を招聘しての講演会等を実施し、生徒の規範意識の維持・向上に努めている。
	3年生	丸亀高校では、服装の整備や時間厳守（遅刻）、私物の整理整頓等、学校生活に集中することをうながす指導や雰囲気作りが行われていた。
	保護者	丸亀高校では、早朝登校指導や服装検査等、生徒に基本的な生活習慣が身につくような指導が行われていた。
生徒指導 E 3	教員	丸亀高校では、登校指導や校外交通立哨、自転車運転免許講習、外部講師を招聘しての交通安全教室等の交通ホームルームを行い、生徒の交通マナーの向上や事故防止への意識付けが図られている。
	3年生	丸亀高校における、交通立哨指導や自転車運転免許講習、外部講師を招聘しての交通安全教室等の交通ホームルームは、生徒が交通事故防止を意識したり、交通マナーを向上させるために有効だった。
	保護者	丸亀高校における、交通立哨指導や自転車運転免許講習、外部講師を招聘しての交通安全教室等の交通ホームルームは、生徒が交通事故防止を意識したり、交通マナーを向上させるために有効だった。
特別活動 F 1	教員	丸亀高校では、充実した部活動ができるよう、各部への支援ができています。
	3年生	
	保護者	丸亀高校の部活動は、参加を希望する生徒の心身の健全な育成を図るために有効であった。
特別活動 F 2	教員	丸亀高校では、生徒会の活動を通して、生徒の自主・自律の精神が育成されている。
	3年生	丸亀高校の生徒会では、自由生徒会役員を含む生徒会役員を中心として、自主的・自律的な態度を育成する学校行事が適切に運営されていた。
	保護者	丸亀高校では（自由役員を含む生徒会役員と、それに協力する本校生徒を中心として）自主的・自律的な態度を育成する学校行事が、適切に運営されていた。
特別活動 F 3	教員	丸亀高校では、ホームルーム委員会を中心に、生徒自身による充実したホームルームの企画・運営が実施されている。
	3年生	丸亀高校のホームルーム活動では、ホームルーム委員会を中心とした、生徒による充実したホームルームの企画・運営が実施できていた。
	保護者	
特別活動 F 4	教員	丸亀高校では、ふれあい委員会を中心としたボランティア活動を通して、生徒へのボランティア意識の啓発が図られている。
	3年生	丸亀高校では、全国高校総体ボランティア・募金活動・丸亀支援学校交流会等での活動を通してボランティアに関わる意識をうながす指導や雰囲気作りが行われていた。
	保護者	

R7年度					R6年度					R5年度				
①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤
59.0%	38.5%	2.6%	0.0%	0.0%	65.5%	34.5%	0.0%	0.0%	0.0%	70.0%	26.7%	0.0%	0.0%	3.3%
41.8%	39.6%	13.4%	1.1%	4.1%	47.7%	26.0%	6.5%	0.0%	19.8%	49.6%	28.7%	9.0%	1.5%	5.6%
61.5%	35.9%	0.0%	0.0%	2.6%	65.5%	31.0%	3.5%	0.0%	0.0%	83.9%	16.1%	0.0%	0.0%	0.0%
62.7%	31.7%	3.4%	1.1%	1.1%	65.3%	19.1%	6.1%	0.8%	8.8%	70.1%	19.4%	4.5%	0.4%	3.0%
25.6%	69.2%	2.6%	0.0%	2.6%	34.5%	62.0%	3.5%	0.0%	0.0%	48.4%	45.2%	0.0%	0.0%	6.5%
23.5%	38.8%	25.4%	3.4%	9.0%	30.9%	36.6%	16.4%	2.7%	13.4%	32.8%	37.3%	17.2%	3.0%	8.2%
25.6%	43.6%	25.6%	0.0%	5.1%	31.0%	51.7%	13.8%	0.0%	3.5%	41.9%	41.9%	6.5%	0.0%	9.7%
35.9%	56.4%	5.1%	0.0%	2.6%	41.3%	48.3%	6.9%	0.0%	3.5%	45.2%	41.9%	0.0%	3.2%	9.7%
43.2%	36.4%	10.2%	1.1%	9.1%	46.9%	27.1%	11.3%	0.0%	14.7%					
25.6%	43.6%	23.1%	2.6%	5.1%	37.9%	48.3%	13.8%	0.0%	0.0%	25.8%	51.6%	19.4%	0.0%	3.2%
34.3%	49.3%	13.1%	2.2%	1.1%	43.1%	36.6%	14.9%	1.5%	3.8%	46.3%	34.7%	11.9%	1.5%	1.9%
29.5%	42.0%	9.7%	0.0%	18.8%	28.2%	37.3%	11.3%	0.0%	23.2%	39.5%	39.5%	7.0%	1.1%	13.0%
35.9%	51.3%	5.1%	2.6%	5.1%	51.7%	38.0%	10.3%	0.0%	0.0%	41.9%	51.6%	3.2%	0.0%	3.2%
51.5%	36.6%	9.3%	1.5%	1.1%	56.5%	33.2%	5.0%	1.1%	3.8%	57.1%	32.5%	6.0%	1.5%	1.1%
33.5%	42.6%	9.1%	1.7%	13.1%	34.5%	42.9%	10.2%	0.6%	11.9%	44.3%	38.9%	4.3%	2.7%	9.7%
35.9%	56.4%	7.7%	0.0%	0.0%	44.8%	51.7%	3.5%	0.0%	0.0%	48.4%	45.2%	3.2%	0.0%	3.2%
41.8%	41.0%	12.3%	2.2%	2.6%	46.9%	36.3%	7.3%	0.8%	8.8%	51.9%	33.2%	9.3%	1.1%	2.6%
30.7%	40.9%	6.3%	0.0%	22.2%	32.2%	35.6%	7.9%	0.0%	24.3%	43.8%	32.4%	5.9%	1.1%	16.8%
46.2%	53.9%	0.0%	0.0%	0.0%	55.1%	41.4%	0.0%	0.0%	3.5%	45.2%	51.6%	0.0%	0.0%	3.2%
59.1%	33.5%	4.0%	0.6%	2.8%	50.3%	29.9%	6.2%	3.4%	10.2%	63.8%	25.4%	4.9%	1.1%	4.9%
51.3%	46.2%	0.0%	0.0%	2.6%	51.7%	34.5%	3.5%	0.0%	10.3%	64.5%	29.0%	0.0%	0.0%	6.5%
55.6%	35.1%	6.0%	1.5%	1.9%	53.8%	26.3%	5.0%	1.5%	13.4%	68.3%	19.4%	2.6%	0.7%	4.5%
54.0%	39.8%	0.6%	0.6%	5.1%	51.4%	34.5%	4.5%	0.0%	9.6%	59.5%	29.7%	2.7%	1.1%	6.5%
35.9%	48.7%	5.1%	0.0%	10.3%	48.2%	41.4%	6.9%	0.0%	3.5%	64.5%	32.3%	0.0%	0.0%	3.2%
70.9%	24.3%	3.4%	0.4%	1.1%	72.9%	17.2%	2.3%	0.0%	7.6%	73.5%	17.5%	2.2%	0.7%	1.5%
35.9%	56.4%	5.1%	0.0%	2.6%	48.3%	51.7%	0.0%	0.0%	0.0%	74.2%	22.6%	0.0%	0.0%	3.2%
22.0%	39.2%	29.5%	3.7%	5.6%	35.5%	33.2%	19.8%	1.5%	9.9%	35.4%	37.3%	19.0%	2.2%	2.6%

学校評価アンケート結果の比較（3年間）

①ほとんどあてはまる ②あてはまるところがある ③あまりあてはまるところがない ④ほとんどあてはまらない ⑤わからない

人権・同和教育 G 1	教員	丸亀高校での、人権・同和教育ホームルームや講演会等を通じて、生徒は人権問題を自分の問題として捉え、人権意識を高めている。
	3年生	丸亀高校の、人権・同和教育ホームルームや講演会等は、人権に対する意識と理解を深めるのに役立った。
	保護者	丸亀高校の人権・同和教育ホームルームや人権講演会等は、生徒が人権に対する意識と理解を深めるのに役立った。
人権・同和教育 G 2	教員	丸亀高校では、現職教育・現地研修等を通して、人権・同和教育に関する教職員の知見を深め、指導力を向上させている。
	3年生	
	保護者	
人権・同和教育 G 3	教員	丸亀高校では、各教科・科目・校務分掌等に人権・同和教育の視点を取り入れることで、人権を意識した授業・学校運営を行っている。
	3年生	
	保護者	
教育相談 H 1	教員	丸亀高校では、教員相互の情報交換によって、援助を必要とする生徒の実態が把握されている。
	3年生	
	保護者	
教育相談 H 2	教員	丸亀高校では、援助が必要なケースにおいて、関係職員や保護者との連携により、状況に応じた支援ができています。
	3年生	
	保護者	
教育相談 H 3	教員	丸亀高校では、職員への現職教育や、個別のケース会議等により、教育相談的な理解を深めている。
	3年生	
	保護者	
保健 J 1	教員	丸亀高校では、生徒の健康管理に関する指導・支援を適切に行っている。
	3年生	丸亀高校では、生徒が主体的に健康管理できるように、指導・支援が行われていた。
	保護者	丸亀高校では、生徒の健康管理に関する指導・支援が適切に行われていた。
保健 J 2	教員	丸亀高校では、地震や火災などの非常時に対する準備と行動について、指導が行われている。
	3年生	丸亀高校で行われた防災訓練等は、地震や火災などの非常時に対する準備と行動について理解を深めるのに役立った。
	保護者	
保健 J 3	教員	丸亀高校では、積極的な清掃活動により、生徒の環境美化に対する意識を高め、学校の生活環境を整えることができています。
	3年生	丸亀高校の校内生活環境は、生徒の清掃活動等により、整えられていた。
	保護者	
保健 J 4	教員	丸亀高校には、学習環境を整えるためにふさわしい施設・設備・備品があり、大切に使われている。
	3年生	丸亀高校校内の施設・設備・備品は、大切に使われていた。
	保護者	丸亀高校には、学習環境を整えるためにふさわしい施設・設備・備品が整備されていた。

R7年度					R6年度					R5年度				
①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤
48.7%	48.7%	0.0%	0.0%	2.6%	51.7%	48.3%	0.0%	0.0%	0.0%	67.7%	32.3%	0.0%	0.0%	0.0%
53.7%	32.5%	8.2%	1.5%	4.1%	57.6%	28.6%	5.0%	1.5%	7.3%	67.2%	22.0%	4.5%	0.7%	3.7%
43.2%	43.2%	4.5%	0.0%	9.1%	43.5%	33.3%	6.8%	0.0%	16.4%	51.4%	35.7%	4.9%	0.5%	7.6%
51.3%	41.0%	0.0%	0.0%	7.7%	55.1%	41.4%	3.5%	0.0%	0.0%	61.3%	35.5%	0.0%	0.0%	3.2%
33.3%	56.4%	5.1%	0.0%	5.1%	48.3%	48.3%	0.0%	0.0%	3.4%	51.6%	48.4%	0.0%	0.0%	0.0%
61.5%	38.5%	0.0%	0.0%	0.0%	62.0%	34.5%	0.0%	0.0%	3.5%	58.1%	41.9%	0.0%	0.0%	0.0%
69.2%	30.8%	0.0%	0.0%	0.0%	65.5%	34.5%	0.0%	0.0%	0.0%	61.3%	35.5%	0.0%	0.0%	3.2%
59.0%	41.0%	0.0%	0.0%	0.0%	62.1%	37.9%	0.0%	0.0%	0.0%	64.5%	35.5%	0.0%	0.0%	0.0%
56.4%	43.6%	0.0%	0.0%	0.0%	62.0%	34.5%	3.5%	0.0%	0.0%	67.7%	29.0%	0.0%	0.0%	3.2%
35.4%	44.0%	14.9%	1.5%	4.1%	39.7%	29.0%	7.6%	1.5%	22.1%	50.7%	32.8%	7.5%	0.0%	2.2%
33.5%	48.3%	6.3%	0.6%	11.4%	36.7%	37.3%	9.6%	0.6%	15.8%	44.9%	38.9%	3.2%	1.1%	11.9%
43.6%	51.3%	5.1%	0.0%	0.0%	51.7%	31.0%	10.3%	0.0%	0.0%	54.8%	32.3%	12.9%	0.0%	0.0%
50.4%	39.9%	7.1%	0.7%	1.9%	52.7%	35.5%	3.8%	0.4%	13.4%	54.5%	31.0%	8.2%	0.4%	4.5%
18.0%	71.8%	10.3%	0.0%	0.0%	27.6%	69.0%	3.4%	0.0%	0.0%	45.2%	45.2%	9.7%	0.0%	0.0%
49.6%	42.9%	5.2%	1.5%	0.7%	58.4%	26.3%	4.2%	1.1%	1.9%	65.7%	24.3%	3.4%	1.9%	3.0%
33.3%	51.3%	15.4%	0.0%	0.0%	48.3%	51.7%	0.0%	0.0%	0.0%	64.5%	32.3%	3.2%	0.0%	0.0%
59.7%	32.8%	3.4%	0.7%	3.4%	63.7%	25.6%	1.9%	0.0%	8.8%	72.0%	19.0%	3.0%	0.0%	1.9%
36.9%	44.3%	6.8%	2.8%	9.1%	37.9%	40.7%	7.3%	0.6%	13.6%	51.9%	37.3%	4.3%	2.7%	3.8%

学校評価アンケート結果の比較（3年間）

①ほとんどあてはまる ②あてはまるところがある ③あまりあてはまるところがない ④ほとんどあてはまらない ⑤わからない

その他 K1	教員	丸亀高校では、職員会議や学年団会、職員朝礼などを通して、教職員の意思疎通を十分に図れている。
	3年生	
	保護者	
その他 K2	教員	丸亀高校では、面接指導を通して、進路や学習指導、生徒理解を深められている。
	3年生	丸亀高校での、教員との面接は、進路や学習の相談、生活設計にプラスになった。
	保護者	
その他 K3	教員	丸亀高校における、学校行事の年間スケジュールには、昨年度の反省が反映されている。
	3年生	
	保護者	
その他 K4	教員	丸亀高校における65分授業は、生徒に学習内容を理解・定着させるために効果的である。
	3年生	丸亀高校における65分授業は、学習内容の理解・定着に役立った。
	保護者	
その他 K5	教員	丸亀高校では、授業を中心とした適切な学習指導が行われている。
	3年生	丸亀高校では、適切な学習指導が行われていた。
	保護者	丸亀高校では、授業を中心とした適切な学習指導が行われていた。
その他 K6	教員	丸亀高校における2年次の習熟度別授業(数学)は、学習内容の理解・定着を促すための有効な取り組みである。
	3年生	丸亀高校における2年次の習熟度別授業(数学)は、学習内容の理解・定着に役立った。
	保護者	
その他 K7	教員	丸亀高校では、1年次のホームルームを通じて、生徒は進路について考えることができている。
	3年生	
	保護者	
その他 K8	教員	丸亀高校では、1・2年次の「総合的な探究の時間」は、探究的・協働的な学びを促すための有効な取り組みである。
	3年生	丸亀高校での、1・2年次の「総合的な探究の時間」では、他者との協働を通して、現代の諸課題について考えを深め、発表することができた。
	保護者	
その他 K9	教員	「学校生活に関するアンケート調査」や面接を実施する等、いじめ防止に向けた取り組みが積極的に行われている。
	3年生	学校は、いじめ防止のため、啓発活動やいじめを訴えやすい環境づくりを行っていた。
	保護者	丸亀高校は、「学校生活に関するアンケート調査」や面接を実施する等、いじめ防止のため、啓発活動やいじめを訴えやすい環境づくりを行っていた。
その他 K10	教員	
	3年生	丸亀高校では、文武両道を実現させるための適切な指導・助言が行われていた。
	保護者	丸亀高校では、文武両道を実現させるための適切な指導・助言が行われていた。
その他 K11	教員	
	3年生	丸亀高校での生活は満足いくものだった。
	保護者	丸亀高校での生活は、満足いくものだった。

R7年度					R6年度					R5年度				
①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤
48.7%	46.2%	5.1%	0.0%	0.0%	48.3%	48.3%	3.4%	0.0%	0.0%	54.8%	32.3%	9.7%	0.0%	3.2%
74.4%	25.6%	0.0%	0.0%	0.0%	72.4%	27.6%	0.0%	0.0%	0.0%	67.7%	25.8%	3.2%	0.0%	3.2%
49.6%	39.6%	9.7%	0.7%	0.4%	58.0%	31.7%	5.7%	1.5%	1.5%	70.1%	20.1%	4.1%	1.1%	0.7%
41.0%	46.2%	12.8%	0.0%	0.0%	20.7%	48.3%	10.3%	0.0%	20.7%	35.5%	48.4%	6.5%	3.2%	6.5%
43.6%	43.6%	2.6%	5.1%	5.1%	48.3%	41.4%	0.0%	0.0%	10.3%	38.7%	41.9%	9.7%	0.0%	9.7%
32.5%	37.3%	22.8%	4.9%	2.6%	27.1%	42.0%	18.7%	7.6%	4.6%	39.6%	34.7%	16.4%	4.5%	2.2%
66.7%	30.8%	2.6%	0.0%	0.0%	65.5%	34.5%	0.0%	0.0%	0.0%	67.7%	32.3%	0.0%	0.0%	0.0%
50.7%	39.9%	7.5%	0.7%	1.1%	55.0%	35.5%	5.7%	0.8%	3.1%	65.7%	27.6%	3.7%	0.7%	1.1%
50.6%	35.8%	5.7%	0.0%	8.0%	49.7%	36.7%	4.5%	0.0%	9.0%	60.5%	27.0%	5.4%	1.1%	5.9%
53.9%	23.1%	2.6%	0.0%	20.5%	44.8%	24.1%	0.0%	3.5%	27.6%	51.6%	9.7%	0.0%	3.2%	35.5%
56.7%	28.4%	8.6%	2.6%	3.7%	49.6%	28.2%	9.5%	3.4%	9.2%	58.6%	24.6%	9.0%	2.2%	2.6%
41.0%	41.0%	5.1%	0.0%	12.8%	51.7%	27.6%	0.0%	0.0%	20.7%	48.4%	29.0%	0.0%	0.0%	22.6%
18.0%	51.3%	15.4%	2.6%	12.8%	27.5%	44.8%	13.7%	7.0%	7.0%	32.3%	25.8%	16.1%	6.5%	19.4%
35.1%	38.4%	20.1%	4.1%	2.2%	46.9%	27.1%	18.3%	4.2%	3.4%	38.4%	39.6%	15.3%	2.2%	1.5%
56.4%	38.5%	2.6%	0.0%	2.6%	68.9%	27.6%	0.0%	0.0%	3.5%	58.1%	38.7%	0.0%	0.0%	3.2%
35.4%	39.9%	12.7%	2.2%	9.7%	43.1%	34.7%	10.7%	2.7%	8.8%	52.2%	30.6%	9.0%	2.2%	5.2%
34.1%	38.1%	6.8%	0.0%	21.0%	35.0%	33.3%	8.5%	0.6%	22.6%	44.9%	27.6%	3.8%	1.1%	22.7%
39.2%	41.8%	13.8%	2.6%	2.6%	46.6%	32.1%	12.6%	1.9%	6.9%	46.6%	30.6%	13.8%	1.9%	3.0%
47.7%	35.8%	6.8%	1.7%	8.0%	43.5%	30.5%	9.6%	0.0%	16.4%	53.5%	33.0%	8.1%	1.1%	4.3%
64.6%	28.7%	3.4%	0.7%	2.6%	63.4%	22.1%	3.8%	0.8%	9.9%	73.5%	18.3%	1.9%	0.7%	2.2%
63.1%	31.3%	2.8%	0.6%	2.3%	56.5%	31.1%	5.1%	0.0%	7.3%	69.2%	23.8%	2.2%	0.5%	4.3%

令和7年度学校評価アンケート用紙【3年生】集計結果(数値は%です) 回答数268

①ほとんどあてはまる ②あてはまるところがある ③あまりあてはまるところがない ④ほとんどあてはまらない ⑤わからない(判断できない)

番号	評価項目	解答欄					④の理由をお願いします
		①	②	③	④	⑤	
1	丸亀高校では、生徒の適性や進路目標を踏まえ、かつ豊かな情操を養うことに留意した教育課程が編成されていた。	39.9	46.6	9.0	2.2	2.2	・物理の適性がわからない中での選択は、少し失敗した。 ・共通テスト後の特別時間割で、他のクラスから7組へ来る人は数人いるが、7組から他のクラスへ行けないのはおかしい。難関大学を目指さない人にとっては、標準問題を確実に取ることが優先。
2	丸亀高校では、年度当初に配られたシラバスをみることで、年間の授業計画の概要を理解することができた。	52.6	35.4	10.1	1.1	0.7	・計画と大幅にずれている教科が多く、不安だった。 ・シラバスの計画とは大きくずれた進み方をしていたから。
3	丸亀高校での教員との面接は、進路や学習の相談、生活設計にプラスになった。	49.6	39.6	9.7	0.7	0.4	・筆記とマークシートの点数差異等の関係上、参考にならないから
4	丸亀高校では、学習状況調査や進路ホームルーム、面接など、生徒が継続的な学習が行えるよう、適切な学習指導が行われていた。	52.2	38.1	7.8	1.1	0.7	
5	丸亀高校における65分授業は、学習内容の理解・定着に役立った。	32.5	37.3	22.8	4.9	2.6	・慣れただけで長い気がする。50分と何が違うか謎。 ・中には雑談を多く含む授業があり、不要に感じた。 ・短い時間でテンポよくした方が良いのではないかと感じた。 ・50分にして小分けにしてほしい ・50分授業にして残りの時間を生徒の自主性に委ねた方が良い。
6	丸亀高校では、適切な学習指導が行われていた。	50.7	39.9	7.5	0.7	1.1	
7	丸亀高校で行われた、生徒からの授業評価は、授業に活かされていた。	23.5	38.8	25.4	3.4	9.0	・匿名調査でない以上意味はない ・何も変化は感じなかったから。 ・特段活かされていると感じない
8	丸亀高校における2年次の習熟度別授業(数学)は、学習内容の理解・定着に役立った。	56.7	28.4	8.6	2.6	3.7	・文系だと下クラスの方が速かったり、先生による違いの方が大きかった気がする。 ・移動する時間の無駄。 ・習熟度別にしているのに、テストが同一なのは意味がある？
9	丸亀高校の1・2年次の「総合的な探究の時間」では、他者との協働を通して、現代の諸課題について考えを深め、発表することができた。	35.1	38.4	20.1	4.1	2.2	・グループ分けで誰とあたるか分からないと苦しい。自分以外が全て友達で困っている人もいた。 ・生徒でメンバーを決めたのではないせいで、メンバーの間に探究したいことのずれが大きかったから。 ・やる気のある人とない人の差や、負担が偏っていたり、十分な時間がなく、CANの劣化版でしかない。
10	丸亀高校における、進路ホームルーム・コース選択説明会・キャンパスツアー等の行事は、自らの進路について考えるよい機会となった。	49.3	35.8	12.7	1.5	0.7	・一年生の時の香大は本当にいらなと思った。 ・進路は高校に入る前から決定しており、変化はなかったから。
11	丸亀高校では、生徒が自分の将来を考え、その実現のための努力ができるような指導が行われていた。	49.6	39.9	8.2	1.1	1.1	
12	丸亀高校では、文武両道を実現させるための適切な指導・助言が行われていた。	39.2	41.8	13.8	2.6	2.6	・ただ文武両道を押し付けてくるだけ ・別に文武両道は「実現すべきもの」ではないのでは？
13	丸亀高校では、服装の整備や時間厳守(遅刻)、私物の整理等、学校生活に集中することをうながす指導や雰囲気作りが行われていた。	51.5	36.6	9.3	1.5	1.1	・物がたくさんあふれていた。 ・特に化粧に目をつむっていることが気になる。 ・甘い。

14	丸亀高校では、全国高校総体ボランティア・募金活動・丸亀支援学校交流会等での活動を通してボランティアに関わる意識をうながす指導や雰囲気作りが行われていた。	22.0	39.2	29.5	3.7	5.6	・知らなかった。 ・言葉はあるが、実際なんの意味が？「やればいい」と言うようなら自発的ではない。 ・指導はなかったように思う。
15	丸亀高校では、自発的なあいさつや、相手を尊重した言動をとることをうながす指導や雰囲気作りが行われていた。	34.3	49.3	13.1	2.2	1.1	・挨拶しても無視する人がいる。 ・特に何も指導がなかった。 ・そもそも指導をする人にそういった言動ができているの？と感じることが多くあったから。
16	丸亀高校における交通立哨指導や自転車運転免許講習、外部講師を招聘しての交通安全教室等の交通ホームルームは、生徒の事故防止への意識付けや、交通マナーの向上に有効だった。	41.8	41.0	12.3	2.2	2.6	・自転車の危ない運転をかなり見かけたから。
17	学校は、いじめ防止のため、啓発活動やいじめを訴えやすい環境づくりを行っていた。	35.4	39.9	12.7	2.2	9.7	・まったく感じなかったから。 ・全然聞いた気がしない。
18	丸亀高校の、人権・同和教育ホームルームや講演会等は、人権に対する意識と理解を深めるのに役立った。	53.7	32.5	8.2	1.5	4.1	
19	丸亀高校で行われた防災訓練等は、地震や火災などの非常時に対する準備と行動について理解を深めるのに役立った。	50.4	39.9	7.1	0.7	1.9	
20	丸亀高校の生徒会では、自由生徒会役員を含む生徒会役員を中心として、自主的・自律的な態度を育成する学校行事が適切に運営されていた。	55.6	35.1	6.0	1.5	1.9	・制限がそこそこあったように思う。 ・そこまで自由じゃない気がする
21	丸亀高校のホームルーム活動では、ホームルーム委員を中心とした、生徒による充実したホームルームの企画・運営を実施できていた。	70.9	24.3	3.4	0.4	1.1	
22	丸亀高校の校内生活環境は、生徒の清掃活動等により、整えられていた。	49.6	42.9	5.2	1.5	0.7	・トイレが汚いのは担当する生徒が悪いとするだけでなく、学校で何か対策するべきだと思ったから ・掃除が行き届いていない場所も多かった。
23	丸亀高校では、生徒が主体的に健康管理できるように、指導・支援が行われていた。	35.4	44.0	14.9	1.5	4.1	
24	丸亀高校の図書館便り電子版・読書感想文・学級文庫・読書の時間・サテライト図書室等は、読書のために有効であった。	41.8	39.6	13.4	1.1	4.1	・結局自分は読書をしてないから ・昔のものへの偏りから、読もうという気にならなかった（学級文庫）。
25	丸亀高校の授業・行事で活用された、プロジェクターやタブレット等の情報機器や視聴覚機器は、理解を深めるために有効だった。	62.7	31.7	3.4	1.1	1.1	・よく接続しないことがあった。 ・教師が楽になったのであり生徒にメリットがあるように思えなかったから
26	丸亀高校の施設・設備・備品は、大切に使われていた。	59.7	32.8	3.4	0.7	3.4	
27	丸亀高校での生活は満足いくものだった。	64.6	28.7	3.4	0.7	2.6	

その他、ご意見があればお書きください。

・個人的には（ごく一部ではありますが）自分の政治思想をちらつかせる先生がいるのが気になりました。

・④だけでなく、その他の選択についても理由を書かせるべきだと思った。

・体育館で集会があるときに、冬は上着は着たらダメで、膝にかけないといけないなど、防寒着の面でなぜダメなのかが伝わらない。

・HR委員の負担が3年生になると大きく感じる。人によっては、そちらのHRの準備にかかる時間がない。また、図書館の本は基本的に年代が一昔前のものが多く、わざわざ読みに行こうと思うことが少ない。また、シリーズものが途中で止まっていたりすることがあり、買いに行くのは親が許してくれない等の人にとってはデメリットでしかないと思う。 ・卒業試験だけはどうかしてほしかった。

・月曜日の65分6限はしんどかった。5限か短縮6限にしてほしい。

・この学校ではたくさんの達成感を感じることができた。

令和7年度学校評価アンケート用紙【3年生保護者】集計結果(数値は%です) 回答数176

①ほとんどあてはまる ②あてはまるところがある ③あまりあてはまるところがない ④ほとんどあてはまらない ⑤わからない(判断できない)

番号	評価項目	解答欄					④の理由をお願いします
		①	②	③	④	⑤	
1	丸亀高校では、PTA総会やPTAだより、学校ホームページや学校配信メール等を通して、学校の情報を知ることができた。	49.4	39.2	9.7	0.0	1.7	・ホームページは全日制の記事があまりないので、(定時制がとて多いのだけど)もっとあればと思う。行事予定が役立ちました。 ・ホームページで行事等の更新をもっとしていただけるとありがたいです。
2	丸亀高校における授業のカリキュラムは、生徒の適性や進路目標、そして情操に配慮した教育課程(授業のカリキュラム)を編成し、適切に運用されていた。	34.1	48.3	6.3	1.7	9.7	・受験間近なのに、終わらない科目があった。 ・レベルに応じたクラス分けがされなかった。 ・学校の授業だけでではとてもついていけない様子でした。
3	丸亀高校では、授業を中心とした適切な学習指導が行われていた。	50.6	35.8	5.7	0.0	8.0	
4	丸亀高校では、生徒に学習習慣が確立するよう、適切な学習指導が行われていた。	43.8	39.2	8.5	0.0	8.5	
5	丸亀高校における、進路説明会・コース選択説明会等の行事は、進路について考えるよい機会となった。	58.5	35.8	4.0	0.0	1.7	・詳しく説明してくれた。 ・音響をどうにかしてください。聞き取れません。
6	丸亀高校における公開授業日(授業参観)の実施は、学校での生徒の様子を知るよい機会となった。	43.2	36.4	10.2	1.1	9.1	・教室、廊下が狭く全く見えなかった ・一度も行かなかった。
7	丸亀高校では、生徒が自発的なあいさつを行ったり、相手を尊重した言動をとれるようになったりするための助けとなるような雰囲気作りや指導が行われていた。	29.5	42.0	9.7	0.0	18.8	
8	丸亀高校では、早朝登校指導や服装検査等、生徒に基本的な生活習慣が身につくような指導が行われていた。	33.5	42.6	9.1	1.7	13.1	・怠惰がこびりついてました。 ・適切に服装検査が行われているとは思えない生徒を見かけた。
9	丸亀高校における、交通立哨指導や自転車運転免許講習、外部講師を招聘しての交通安全教室等の交通ホームルームは、生徒が交通事故防止を意識したり、交通マナーを向上させたりするために有効だった。	30.7	40.9	6.3	0.0	22.2	
10	丸亀高校は、「学校生活に関するアンケート調査」や面接を実施する等、いじめ防止のため、啓発活動やいじめを訴えやすい環境づくりを行っていた。	34.1	38.1	6.8	0.0	21.0	
11	丸亀高校の人権・同和教育ホームルームや人権講演会等は、生徒が人権に対する意識と理解を深めるのに役立った。	43.2	43.2	4.5	0.0	9.1	
12	丸亀高校では、文武両道を実現させるための適切な指導・助言が行われていた。	47.7	35.8	6.8	1.7	8.0	・学校の授業だけではとてもついていけない様子でした。
13	丸亀高校の部活動は、参加を希望する生徒の心身の健全な育成を図るために有効であった。	59.1	33.5	4.0	0.6	2.8	
14	丸亀高校では(自由役員を含む生徒会役員と、それに協力する本校生徒を中心として)自主的・自律的な態度を育成する学校行事が、適切に運営されていた。	54.0	39.8	0.6	0.6	5.1	

番号	評価項目	解答欄					④の理由をお願いします
		①	②	③	④	⑤	
15	丸亀高校では、生徒の健康管理に関する指導・支援が適切に行われていた。	33.5	48.3	6.3	0.6	11.4	・感染症対策として1日に数回窓を開けて換気した方がいいと思う。
16	丸亀高校には、学習環境を整えるためにふさわしい施設・設備・備品が整備されていた。	36.9	44.3	6.8	2.8	9.1	・新生生にもiPadの導入をしてほしい。 ・土足で汚い。狭い。 ・トイレが水浸しになる。 ・トイレの数が少なすぎだと感じる。 ・エアコンの使い方が適切でない。 ・教室と廊下が狭い。 ・ロッカーが小さい。 ・斯文祭や講演会でマイクの調子が良くなかったため、事前の音響チェック等改善ができたらと思いました ・教室が狭すぎる。
17	丸亀高校では、生徒が自分の将来を考え、その実現のために努力ができるような指導が行われていた。	43.2	46.0	5.1	0.0	5.7	・大学受験がゴールになっている印象は少しある。
18	生徒は、この3年間に様々な経験を経て、学力的・社会的・人間的に成長できた。	63.6	33.0	3.4	0.0	0.0	
19	丸亀高校での生活は、満足いくものだった。	63.1	31.3	2.8	0.6	2.3	・より高みを目指せる学習環境でなかった。 ・正直、下の子がいたら入学させるか悩みます。

その他、ご意見があればお書きください。

・学校は1年生の時から学習習慣指導を行ってくれていると思うが、学生は3年生になると1年生のときからもっと勉強しておけばよかったと思うことが多いと思うので、1年生から+αの学習ができる意識付けがあるとさらによかったと思う。

・ダッシュクラスに入る基準を明確にしてほしい。

・部活動も熱心に指導していただき、充実した学校生活を送ることができました。ありがとうございました。

・文系の国公立2次で地歴2科目が必要な生徒には厳しいカリキュラムであったように思う。2次対策として、添削指導を受ける回数の制限があったことも、通塾していない生徒にとっては少し残念に感じた。

・式典での服装の規則を見直した方が良いと思います。例えば体調管理のため黒いタイトの着用を認めていただきたいです。

・1年、2年、3年と生徒の将来を考え、指導していただきました。学校行事や部活動を通じて人間的に大きく成長できたと思います。

・良い先生方、友人達に恵まれ、とても有意義な3年間だったと思います。大変お世話になり、ありがとうございました。

・充実した高校生活を送ることができたようです。3年間お世話になりありがとうございました。

・3年間大変お世話になりました。無事卒業できることを大変うれしく思っております。が、先生によって、あまりに質が違うので驚きました。職員室へ寄っても席を立たずに「あっち。(となりの職員室へ行け)」と言われたこともあります。わが子はそれほどレベルの高い学校を進学先に選んでいませんでしたが、学校での授業についていけず、塾など必須で、かなり高額でした。坂高くらいの方が、丁寧に指導して下さったのかと思っております。勉強は大変そうでしたが、部活の先生や、クラスの先生たちに恵まれ、成長した3年間でした。ありがとうございました。

・今後、ジェンダーを考慮し、選択できる制服への移行や、酷暑・猛暑下での適切な運動・部活動の負担(うちこみややすさ)軽減を考慮し、体育館のエアコン導入を検討してほしい。3年間ありがとうございました。

・3年間クラス活動や部活動など、とても充実した学生生活を送ることができました。ありがとうございました。

・3年間大変お世話になりました。ありがとうございました。(多数)

・子どもがとても楽しんで通えていたので本当によかったです。ありがとうございました。

・一教室あたりの生徒数が多く、安全面や感染症対策における不安が大きかった。

・歯科検診等の日は、持参した弁当を残して帰宅することが多々あった。食事の時間はしっかりと確保してほしい。

・PTAの総会等、平日の日中が多く、役員にあたってはほとんど参加できず、受け入れたのに欠席ばかりで申し訳ない気持ちになった。できれば、せっかく受けたのなら皆が参加しやすい時間日程を計画してほしい。あと、アンケート内容の項目も親が見えにくい、わかりづらいものばかりのように思える。行事は親としても楽しめたので、③ばかりだが、学校生活には満足をしている。

・体育館の音響、マイクが聞き取れず、進路説明など分かりづらかったです。

・授業進度が遅いので、入試に間に合うように進めてほしい。

・いろいろとご指導いただき、ありがとうございました。

令和7年度学校評価アンケート用紙【教員】集計結果(数値は%です) 回答数40

①ほとんどあてはまる ②あてはまるところがある ③あまりあてはまるところがない ④ほとんどあてはまらない ⑤わからない(判断できない)

識別番号	評価項目	解答欄					
		①	②	③	④	⑤	
総務	A 1	P T A 総会やP T A だより等を通して、学校の実態を保護者に発信し、その理解・協力を得られている。	67.5	30.0	0.0	0.0	2.5
教務	B 1	校務支援システムは、本校の実情に応じて改訂・調整され、校務実施の助けとなっている。	40.0	55.0	0.0	0.0	2.0
	B 2	生徒の適性や進路目標を踏まえ、豊かな情操を養うことに留意して教育課程を編成し、適切に運用できている。	47.5	50.0	2.5	0.0	0.0
	B 3	授業やホームルームにおける教師の指導や、「T P (総合的な探究の時間)」等での外部講師による講演会は、生徒の学習意欲と進路意識の高揚につながっている。	35.0	57.5	7.5	0.0	0.0
	B 4	丸亀高校では、学校案内の発行等により、中高連携を図っている。	25.6	56.4	5.1	0.0	12.9
	B 5	丸亀高校のシラバスは、生徒が1年間の学習計画を理解するために役立っている。	20.5	61.5	12.8	0.0	12.9
	B 6	一人一台端末の導入を含めた授業等におけるI C T 機器の活用は、授業改善及び生徒の主体的な学びの促進につながっている。	38.5	56.4	5.1	0.0	0.0
進路指導	C 1	進路ホームルーム・コース選択説明会・キャンパスツアー等は、生徒が自らの志望と適性を見つめつつ、自らの進路目標を具体化させることに有益である。	64.1	33.3	0.0	0.0	2.6
	C 2	学習状況調査・進路ホームルーム・課外・面接等は、生徒の自律的な学習習慣の確立への力となっている。	51.3	46.2	0.0	0.0	2.6
	C 3	丸亀高校では、生徒が自分の将来を考え、その実現のために努力ができるような指導が行われている。	51.3	48.7	0.0	0.0	0.0
	C 4	丸亀高校での3年間の指導は、生徒を学力的・社会的・人間的に成長させるのに効果的である。	43.6	51.3	2.6	0.0	2.6
教育研究	D 1	図書館便り・読書感想文・学級文庫・読書の時間・サテライト図書室等を利用して、読書活動を推進している。	59.0	38.5	2.6	0.0	0.0
	D 2	丸亀高校では、授業での活用を図るため、情報機器、視聴覚機器を充実させている。	61.5	35.9	0.0	0.0	2.6
	D 3	丸亀高校では、生徒からの授業評価や、公開授業等を実施し、授業改善が図られている。	25.6	69.2	2.6	0.0	2.6
	D 4	丸亀高校では、英検等の検定による生徒の資格取得や、科学の甲子園等への参加を促す活動を行っている。	25.6	43.6	25.6	0.0	5.1
	D 5	本校で実施された研究授業・授業参観などは、本校職員の授業力向上に役立っている。	35.9	56.4	5.1	0.0	2.6
生徒指導	E 1	丸亀高校では、生徒が自発的なあいさつを行い、相手を尊重した言動をとることができるようになるための指導が行われている。	25.6	43.6	23.1	2.6	5.1
	E 2	丸亀高校では、早朝登校指導や校外交通立哨、服装検査、週番活動、外部講師を招聘しての講演会等を実施し、生徒の規範意識の維持・向上に努めている。	35.9	51.3	5.1	2.6	5.1
	E 3	丸亀高校では、登校指導や校外交通立哨、自転車運転免許講習、外部講師を招聘しての交通安全教室等の交通ホームルームを行い、生徒の交通マナーの向上や事故防止への意識付けが図られている。	35.9	56.4	7.7	0.0	0.0

識別番号		評価項目	解答欄				
特別 活動	F 1	丸亀高校では、充実した部活動ができるよう、各部への支援ができています。	46.2	53.9	0.0	0.0	0.0
	F 2	丸亀高校では、生徒会の活動を通して、生徒の自主・自律の精神が育成されている。	51.3	46.2	0.0	0.0	2.6
	F 3	丸亀高校では、ホームルーム委員を中心に、生徒自身による充実したホームルームの企画・運営が実施されている。	35.9	48.7	5.1	0.0	10.3
	F 4	丸亀高校では、ふれあい委員を中心としたボランティア活動を通して、生徒へのボランティア意識の啓発が図られている。	35.9	56.4	5.1	0.0	2.6
人権 ・ 同和 教育	G 1	丸亀高校での、人権・同和教育ホームルームや講演会等を通じて、生徒は人権問題を自分の問題として捉え、人権意識を高めている。	48.7	48.7	0.0	0.0	2.6
	G 2	丸亀高校では、現職教育・現地研修等を通して、人権・同和教育に関する教職員の知見を深め、指導力を向上させている。	51.3	41.0	0.0	0.0	7.7
	G 3	丸亀高校では、各教科・科目・校務分掌等に人権・同和教育の視点を取り入れることで、人権を意識した授業・学校運営を行っている。	33.3	56.4	5.1	0.0	5.1
教育 相談	H 1	丸亀高校では、教員相互の情報交換によって、援助を必要とする生徒の実態が把握されている。	61.5	38.5	0.0	0.0	0.0
	H 2	丸亀高校では、援助が必要なケースにおいて、関係職員や保護者との連携により、状況に応じた支援ができています。	69.2	30.8	0.0	0.0	0.0
	H 3	丸亀高校では、職員への現職教育や、個別のケース会議等により、教育相談的な理解を深めている。	59.0	41.0	0.0	0.0	0.0
保健	J 1	丸亀高校では、生徒の健康管理に関する指導・支援を適切に行っている。	56.4	43.6	0.0	0.0	0.0
	J 2	丸亀高校では、地震や火災などの非常時に対する準備と行動について、指導がされている。	43.6	51.3	5.1	0.0	0.0
	J 3	丸亀高校では、積極的な清掃活動により、生徒の環境美化に対する意識を高め、学校の生活環境を整えることができている。	18.0	71.8	10.3	0.0	0.0
	J 4	丸亀高校には、学習環境を整えるためにふさわしい施設・設備・備品があり、大切に使われている。	33.3	51.3	15.4	0.0	0.0
その 他	K 1	丸亀高校では、職員会議や学年団会、職員朝礼などを通して、教職員の意思疎通を十分に図れている。	48.7	46.2	5.1	0.0	0.0
	K 2	丸亀高校では、面接指導を通して進路や学習指導、生徒理解を深められている。	74.4	25.6	0.0	0.0	0.0
	K 3	丸亀高校における、学校行事の年間スケジュールには、昨年度の反省が反映されている。	41.0	46.2	12.8	0.0	0.0
	K 4	丸亀高校における、65分授業は、生徒に学習内容を理解・定着させるために効果的である。	43.6	43.6	2.6	5.1	5.1
	K 5	丸亀高校では、授業を中心とした適切な学習指導が行われている。	66.7	30.8	2.6	0.0	0.0
	K 6	丸亀高校における、2年次の習熟度別授業(数学)は、学習内容の理解・定着を促すための有効な取り組みである。	53.9	23.1	2.6	0.0	20.5
	K 7	丸亀高校では、1年次のホームルームを通じて、生徒は進路について考えることができている。	41.0	41.0	5.1	0.0	12.8
	K 8	1・2年次の「総合的な探究の時間」は、探究的・協働的な学びを促すための有効な取り組みである。	18.0	51.3	15.4	2.6	12.8
	K 9	「学校生活に関するアンケート調査」や面接を実施する等、いじめ防止に向けた取り組みが積極的に行われている。	56.4	38.5	2.6	0.0	2.6

- ・ここに書くのが適当なのかわからないのですが、設備に関して、食堂に冷房があればもっと良いのと思う。あと、鳩が来れないようにベランダにネットがあれば嬉しい。
- ・生徒指導（特に服装指導）に関して、どれくらい厳しくしたらいいのか迷います。例えば冬の防寒着が黒紺になっているが、白を着てきている人がかなりいます。規則を周知するならきちんと守らせたいと思いますし、守らなくてもいいのなら周知もしなくて良いかなと思います。
- ・自然災害発生時における教職員への研修をしていただくと助かります。（実際に起きたことを想定して、誰がいつどのように動くのか、何がどこにあるのか、どのように避難生活を運営するのか、具体的に考える機会が欲しいです）
- ・生徒中心で学校行事が運営されていることはいいことだと思いますが、一生懸命になりすぎて先生への相談が遅くなったり、遅い時間まで残ったりしている状況は改善するべきではと思います。
- ・担任でないと学年団会に出る訳ではないので、学校の状況がわからないときがある。
- ・内規集を整理してほしい。

1 構成 学校評議員4名

2 評価の内容

【教育課程】

(丸田) シラバスのデータ配信は大変良いと思います。校務支援システムによって、業務負担の軽減を図られていることも大変良いことだと思います。3年間の比較でB6「ICT機器の活用」について、(教科の特性もあるかもしれませんが、) 教員①が減少傾向、③は過去2年0%でしたが、今年度は5.1%となっています。理由を知ることによって解決に向けてほしいと思います。ホワイトボードとプロジェクターを使った授業は、新しい取組なので定着するまでは課題もあるかもしれませんが、良い効果を期待しています。

(小川) 生徒や教員にとって、より良いデジタル化を目指しているのがうかがえる。

(森貞) 各教科適切な指導が実施されている。

(香川) 先生方が熱心に取り組まれていることがよく分かります。いろいろ工夫され、生徒の学びが深まっていくことを期待しています。生徒も一生懸命取り組んでいるようで安心しております。

【学習指導】

(丸田) どの教科でもタブレットを効果的に活用した授業に取り組まれている様子がうかがえます。

(小川) 直接受験と関係ない教科の授業を受ける意義を生徒に伝えようとしている。

(森貞) 各教科適切な指導が実施されている。

(香川) 先生方が熱心に取り組まれていることがよく分かります。いろいろ工夫され、生徒の学びが深まっていくことを期待しています。生徒も一生懸命取り組んでいるようで安心しております。

【進路指導】

(丸田) 学年毎に各種行事を計画され、教員、生徒、保護者ともに高評価で推移しているは大変良いことだと思います。キャンパスツアーの連携大学が増えてきているのは良い傾向だと思います。「学問を愉しむ会」がより充実した取組になっているようですが、対象者や出席者数について具体的に知りたいと思いました。

(小川) 生徒の進路や受験に対しての教員の工夫や苦勞がうかがえる。

(森貞) 校内模試やキャンパスツアーなど、学生の学力やモチベーションを高める有意義な取り組みができています。

(香川) 以前にも申し上げましたが、キャンパスツアーについては、学校主導ではなく生

徒自身で行うのがよいかと。情報は提示しても教師が引率(?)することはないのでは。調べる方法は持っているし、そこからが進路決定の始まりではないかと思います。何事もお膳立てして失敗せぬよう、タイパ、コスパではなく、失敗しながら、自分でやってこそ、たくましくなるのではないかと思います。相談にはのるが、自分でやることの大切さを体験してほしいです(全ての活動について)。

【生徒指導】

(丸田) 学校全体で生徒指導に取り組まれていることが良いことだと思います。また、生徒会が参加した登校指導も生徒の自主性を促す、良い取組だと思います。ヘルメット着用についてご指導にご苦労されているようです。命に係わることなので継続指導が必要だと思います。生徒の自発的な着用に向けた取組をお願いします。全国的に SNS 関連の事件が増加しています。タブレット等の使用について、校内使用ルールも含め、加害者にも被害者にもならないよう、ご指導をお願いします。学年団と関係分掌の連携が、素早い対応に繋がっていると思いました。

(小川) 生徒会もまき込んで指導できているのは良いと思う。

(森貞) 特に ICT 活用について、今後も課題が出てくるかと思うが、学生に適切な指導を行ってほしい。

【特別活動】

(丸田) ホームルームの運営について、生徒の回答は①②を合わせると 95.2%となり、継続して高評価となっています。教員回答の①が年々減少しています。先生方と生徒では求めるものが違っているのでしょうか。また、⑤と回答した先性方が 10.3%いらっしゃるのが気になりました。

(小川) 大学受験の予備校ではない丸高生活にとっては大切な活動だと思う。

(森貞) 様々な行事・部活動を通して、学生の人間性の向上にもつながっていると思う。

【開かれた学校づくり】

(丸田) 「学校新聞」、「PTA だより」、「ホームページ」等で学校の情報提供が良くできていると思います。特にホームページは、取り扱う記事が広範囲にわたるので運営が大変ですが、良く更新されていると思います。ただ、古い記事が残っているものもありますので、生徒の活動に関する記事は2年間程度にしてはいかがでしょうか。

(小川) PTA や同窓会との交流を続けることは支援にもつながり、大切だと思う。

(森貞) 適切な取り組みがおこなわれている。

【定時制】

(丸田) 様々なテーマについて講演会を実施しているのが良いと思います。授業参観では、

個々の生徒に寄り添った、丁寧な指導に取り組まれていることが分かりました。「生活体験発表」では、生徒の校内外での成長がよく分かりました。

(小川) 生徒それぞれが様々な事情を抱えながらも定時制・通信制へと進学しようと思ったその気持ちをより良い方向へと伸ばそうとする学校側の工夫を感じる。

(森貞) 様々なバックグラウンドを持つ学生に対し、適切な指導が実施されている。

(香川) 多様な背景を持つ生徒に対応しておられること、日々大変だと思います。この二つの課程こそ、寄り添うことが大切でしょうから、どうぞよろしくお願いいたします。

【通信制】

(丸田) 毎月発行される「丸亀通信」では、教務的な情報だけでなく、多くの生徒の活動が写真と共に掲載されており、生徒の意欲を高める効果があると思いました。授業参観では、クラスサイズに合わせ、効果的な指導をされていました。中学校関係者の参観もあり、「中高連携が特に必要とされている」と感じました。

(小川) 生徒それぞれが様々な事情を抱えながらも定時制・通信制へと進学しようと思ったその気持ちをより良い方向へと伸ばそうとする学校側の工夫を感じる。

(森貞) 講義や課外活動を通して、学生の学力・人間性の向上を促している。

(香川) 多様な背景を持つ生徒に対応しておられること、日々大変だと思います。この二つの課程こそ、寄り添うことが大切でしょうから、どうぞよろしくお願いいたします。

【その他全般】

(丸田) アンケート項目によっては特定の学年団に限定されることもありますが、⑤「わからない」と回答した教員が10~20%の項目については、何らかの対応が必要だと思われます。学校全体として取り組んでいる事柄については教員間のより良い情報共有を望みます。

(小川) いただいた資料を隅々まで読めば分かるかもしれないが、馴染みのない用語が気になった。ロイロノート、JST、Classi、ポートフォリオ、ALT。

(森貞) 特にありません。

(香川) いろいろなことを挙げさせてもらいました。

- ・通学について。自転車のマナー、ヘルメット着用等、安全面でどうなっているか。
- ・AI とか導入され学校ではどうなっていくのか。ネット関係のことは放っておいても生徒は達者です。学校でこそ「書く」ことを大事にしてほしい。
- ・高校とはどういうものなのか。大学受験の為の予備校化にならないでほしい。学校だからこそできることをさせてほしい(生徒自身で)。
- ・公立への進学率が低下している中、生徒の質、やる気はどうなっているのか。